

多言語国家スリランカの言語使用状況

—西部州とウバ州における、シンハラ語母語話者、タミル語母語話者の場面別言語使用状況—

サジーワニー ディサーナーヤカ
(千葉大学大学院人文社会科学研究科)

1. スリランカの概要

南アジアインド南部に位置する島国スリランカは多言語社会であり、多くの人が多言語話者である。人口約 2001 万人（2007 年推計）、面積 65,607 平方キロメートル（北海道の約 8 割）。1972 年まではセイロンと称しており、現在もこの国がある島をセイロン島という。1972 年にスリランカ民主主義共和国と改称した。スリランカに居住するのはシンハラ人約 72.9%、タミル人約 18.0%で、この 2 つの民族が大部分を占める。また、バーガー、マレー、先住民のヴッターも居住している。（林田 2002、加納 2006）。

また宗教については仏教徒（70.0%）、ヒンドウ教徒（10.0%）、イスラム教徒（8.5%）、ローマン・カトリック教徒（11.3%）である。首都はスリジャヤワルダナプラ コッテ Sri Jayawardhanapura Kotte。（以上、外務省ホームページより）

（<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%83%AA%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%AB> 右上地図）

スリランカは、その歴史的、地理的、宗教的要因により様々な民族、宗教、言語が存在する複合社会である。言語は、シンハラ語とタミル語が公用語として定められている。これに英語を含めた 3 言語が教育機関、行政機関で用いることのできる言語として、その使用が認められている。

スリランカに住んでいるシンハラ人はシンハラ語を公用語として使用し、タミル人はタミル語を使用している。ムスリムはタミル語やアラビア語を母語として使用している。またシンハラ人もタミル人も第 2 言語として、英語を使用している。スリランカでは幼稚園から大学まで英語を勉強しなければならない。スリランカ人は、外国人と接触する時は英語で話す人が多く、相手の国に合わせて、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ヒンディ



一語、日本語で話す人も現在増えている。また、仏教の影響で仏教徒はサンスクリット語、パーリ語を使用することもある。

シンハラ語はインドヨーロッパ語族インド・イラン語派インドアーリア諸語に属しており、基本語順は SOV 型である。タミル語も基本語順が SOV 型であるが、ドラヴィダ語族に属する言語である。シンハラ語母語話者にとって、タミル語は文法が少し似ているし、同じような語彙も多くあるので勉強するには比較的易しいと思われる。しかし、一番便利で有益である英語は文法も異なっており、習得はあまり容易ではないと思われる。

スリランカは 1948 年に宗主国イギリスから独立したが、英語は 1956 年まで公用語であった。独立前からの「スワバーシャー（自国語）運動」、1956 年の「シンハラ唯一政策」を通じて、1960 年以降スリランカ人の母語は広範な機能を獲得したが、依然として英語能力は教育的、社会的背景の指標であり、現在に至るまで政治的、経済的、文化的に重要な言語である（阿部 1989）。英語に対する意識をめぐっては、「スワバーシャー運動」世代と、現代の 10 代、20 代の若い世代との間には大きなギャップが存在する（加納 2006）。

言語使用の実情は憲法上の規定と必ずしも一致しておらず、1956 年のシンハラ語オンリー公用語法の制定後も貨幣、切手、道路標識、公式文書、ラジオ放送等においてはシンハラ語、タミル語、英語の 3 言語が使用され続けていた。その後、1987 年 11 月には憲法が改正され、シンハラ語だけでなくタミル語も公用語と規定された。現在、印刷物の言語別状況に関しては、シンハラ語で 109 紙、タミル語で 33 紙、英語で 23 紙、バイリンガルで 4 紙の新聞が発刊されている。さらに学校教育では、1930 年代から 1940 年代に教育言語としてシンハラ語とタミル語を使用するようになったが、1960 年代からは大学でも使用されるようになった。学校教育で習得される英語力に関しては、独立後の公用語政策によって著しい低下が報告されている。

また、Fernado (1977) の調査では、スリランカの 2 言語話者の言語使用は職業や階級によって、以下の 3 つのグループに分かれることを指摘している。まず、第 1 のグループは、主に高い英国式生活様式を持ち、民族に関わらずほぼ同じ話し方をする。法律家、医学、教育に関する職業行政機関など社会的階級の高い人々で構成されている。第二のグループは、農場労働者、中流階級の人々で構成されている。彼らは外国語として習得した英語能力が非常に高い。しかし、グループ中でのシンハラ人とタミル人の英語の発音は全く異なっている。第 3 のグループは、学歴・経歴は第 2 グループの人々と同じだが、彼らは流暢に英語を話せず、彼らの英語使用は学校の英語の授業に限られている。社会的格差を減らすために英語教育に力を入れ始めているという現状がある。

さらに林田 (2002) は、使用言語が民族別に分かれる傾向にあるとしている。一般的にシンハラ系はシンハラ語、タミル系・ムーア系はタミル語を用いる。また、シンハラ語とタミル語のバイリンガルは、少数派が多数派の言語を習得するほうが経済的にも社会的にも有利であることから、タミル系に多い。一方、英語話者は全人口の約 10%であるという。

2. スリランカの言語生活についての研究

スリランカの言語生活について調査した論文は少ない。上記で説明した論文の多くはアンケートを基に調査を行ったものである。また、実際の言語使用を調査したものではなく、スリランカ人の意識調査であるため、スリランカ人が日常生活ではどの言語を使っているか、学校、職場、買い物の時などにどの言語を使っているか明らかになってない。スリランカ人が実際に社会の中で他人と接触した時に、どの言語を使っているかを明らかにするために、実際に使用場面を調査することは重要である。

3. 研究概要

スリランカにはシンハラ人が約 72% 居住しており、これはスリランカ人口の多数を占めている。よってシンハラ人はスリランカ社会ではマジョリティであり、日常的にシンハラ人に接することが多く、教育現場、職場以外では、シンハラ語で生活することができる。しかしタミル人は約 18% しかおらず、スリランカの中でタミル語を母語とする人はマイノリティになる。よってタミル人の親は子供が言葉を話し始めると同時に英語を教え始める。それはスリランカで生活していくうえで、タミル語だけでは困難だからである。テレビ放送や新聞ではタミル語ももちろん使われているが、スーパーの店員と話す時など日常生活では英語やシンハラ語が出来なければ、生活に支障が出るだろう。

スリランカの教育機関には様々なタイプがある。義務教育の場合は主に以下の3つがある。

- 1 公立小学校から高校まで（母語使用）
- 2 公立小学校から高校まで（母語及び英語使用）
- 3 私立小学校から高校までインターナショナルスクール（英語使用）

公立小学校では英語の使用が多いところもあるし、少ないところもあるが、どちらも母語の授業があり、そこではシンハラ語、タミル語を使う。一方、インターナショナルスクールでは母語の授業がない。この3つのタイプの学生に対して、それぞれどのような言語でコミュニケーションをとっているかを調査する必要がある。

私の高校時代の親友はタミル人であった。私は当時タミル語が全然分からなかったし、友人もシンハラ語が全く話せなかった。そこで私たちは常に英語で話していた。友達の家に何度か遊びに行ったが、妹がまだ小さく、英語が出来なかったため、どうにかタミル語で話してみようとした。その時のコミュニケーションで少しタミル語を覚えることができた。スリランカの学校で日本語教師をしていたときも、タミル人の先生とのコミュニケーションに苦労した。教師になっているような学歴の高い人だと、反対に英語ができてしまうので、シンハラ語が全く話せない。よってこちらも英語で話さなくてはならず大変だった。スリランカでは、スーパーでも銀行でも、英語は必ず通じてしまうので、英語が話せれば、それ以外の言語を学ぶ必要がないのである。だから、最近はシンハラ人の親の間でも、子供が小さいときから英語を学ばせることが多くなっている。

スリランカの中央部には茶畑が広がっている。ここで働いている人たちはタミル人が多いのだが、そのほとんどがあまり高い教育を受けておらずタミル語しか話せない。よって

この人たちとコミュニケーションをとるためには、シンハラ人がタミル語を覚える必要が出てくる。このようなことがあって、二年程前から、スリランカの **Ministry of Education Department**（教育省）ではシンハラ人の子供にもタミル語の教育を義務付けている。進学テストや受験テストにもタミル語が採用されている。

シンハラ人でもタミル人でも英語ができたほうがいい職業につけるという現状がある。高等教育を受ける場合には、必ず母語の他に英語が必要になってくるし、銀行での手続きなどはシンハラ語でもできなくはないが、ほとんど英語で行われる。例えば、銀行で残高証明を出したい場合、**bank statement** と英語で表記されており、シンハラ語でも小さく書かれているがほとんど英語の証明書といっていい。施設名としてもシンハラ語での「病院 **ISPIRITALE**」「銀行 **BANKUWA**」「郵便局 **TEPEL KARYALAYA**」と呼ぶことはほとんどなく、それぞれ、**"hospital"** **"bank"** **"post office"** という方が日常的である。このような場合シンハラ語を使うのは、現在 60 歳以上の年代の人や地方に住んでいる人に限られるように思う。

シンハラ人にしろ、タミル人にしろ、自分の母語を大切にしたいという気持ちはもちろんある。意識して家庭の中で母語をより多く使おうとしているわけではないが、英語を使うと自分の母語を大切にしていけないような感じがする。

このようにスリランカでは多くの言語が日常的に併用されている。スリランカにいた時はその特殊性に気づかなかったが、日本に来て、日本では日本語という一つの言語だけで高等教育まで受けられることを知り、母国スリランカとの違いを大きく感じた。日本人は日常生活で母語の日本語しか話さないが、スリランカのシンハラ人は日常生活でもシンハラ語・英語・タミル語の 3 つの言語を使用している。自分の国ではなぜこんなに多くの言語が使用されているのか、その使用状況はどうなっているのかに興味を持ち始めた。いつ、どの言語を使用するかはその人の母語や家庭環境、教育、職場などいろいろな状況によって違うと思うし、マジョリティであるシンハラ人とマイノリティであるタミル人とでも異なってくると思う。多言語が使用されているスリランカの言語状況を調べることは、スリランカの文化や社会の状況を分析することでもあると思う。

日本では日本語を話せば、勉強も出来るし仕事も出来るが、スリランカでは母語 1 つしか話せなければ、勉強や仕事で苦勞するだろう。このようなスリランカの言語状況や言語政策、それによる影響などを調べたいと思う。

さらに、スリランカ社会では教育現場だけでなく、日常生活においても英語が多く使用される。しかし高等教育を受けるということを除外した場合、スリランカ社会において英語の使用は果たしていい影響を与えているのだろうか。スリランカ社会における英語の使用実態や浸透状況などを調べることにより、英語の必要性、母語に対する影響について考えていきたい。

4. 調査報告

スリランカの言語使用状況を調べるために以下のような現地調査を行った。

(1) 調査目的

スリランカ人は、日常生活でもシンハラ語・英語・タミル語の3つの言語を使用している。スリランカの言語状況を調べることは、スリランカの文化や社会状況を分析することでもある。

スリランカでは様々な状況にあわせてコードスイッチング(CS)や借用を行っている。しかし、いつ、どの言語を使用するかは話者の母語や家庭環境、教育、職場など様々な状況によって異なり、マジョリティであるシンハラ人とマイノリティであるタミル人とでも異なると予想される。そこでそれぞれの場面でどの言語を使用し、コミュニケーションをとっているか、また学歴、社会階層によってどのように異なるかについても調べる必要性がある。

スリランカ社会では教育現場だけでなく、日常生活においても英語が多く使用されている。その使用実態や浸透状況などを調べることにより、英語の必要性、母語に対する影響についても考察する。

(2) 調査概要

日本でのパイロット調査のデータをもとにスリランカでアンケート調査を行った。真の言語使用状況を調べるためには、様々な状況の人達について調査する必要がある。そのために現地スリランカ全体で調査を実施した。それによってスリランカ人の使用言語状況を明らかにした。

また母語で話すこと、母語以外で話すことについてどう思っているのか、母語をどれくらい重要あるいは便利だと思っているのかについての意識も明らかにするためアンケート調査を行った。

(3) 調査方法

2011年1月20日から2011年2月23日まで現地スリランカで調査を行った。

スリランカは9つの州に分かれていて、その中の中部州、北中部州、東部州、北西部州、南部州、ウバ州、サバラガムワ州、西部州の8州で調査を行った。

調査対象には各地域で一般的な家庭や銀行・学校・郵便局といった職場を抽出し、学生、会社員、農業従事者、主婦、高齢者の525人に調査を行った。

① アンケート調査

質問項目を立ててシンハラ語、タミル語で調査表を作成した。コミュニケーションを行う場面を4場面に分け、質問項目を立ててアンケート調査を行った。

②インタビュー調査

アンケート調査に協力してくれた調査対象者の中から一つの州で約 10 人を選びインタビューを行った。インタビューにはシンハラ語、英語、タミル語、3 言語を使用した。スリランカのシンハラ人、ムスリム人、タミル人を対象にした本調査では、どの場面でどの言語を使用しているか、場面や学歴、社会階層によって使用言語が異なるかについて調査した。

③自然会話の録画及び録音

また、コミュニケーションをする時に借用やコードスイッチングをするかについても調べるため、アンケート調査に協力してくれた家庭で、家族が全員いる時間に自然会話をビデオ録画及び録音した。スリランカのシンハラ語母語話者、タミル語母語話者を調査対象者とした。コミュニケーションをとる場면을 4 場面に分け、質問項目を立ててアンケート調査を行った。

5. 調査対象者

それぞれの地域の調査対象者をシンハラ、タミル、ムスリムに分類した。シンハラ語母語話者、タミル語母語話者数も調査した。また、社会人は教師、大学教員、医者、エンジニア、看護師、農業従事者、銀行員、警察官、郵便局員、会社員である。525 人の内訳は、女性 234 名、男性 291 名である。シンハラ語母語話者は 328 名、タミル人タミル語母語話者 83 名、ムスリム人タミル語母語話者は 114 名であった。

調査地域

1. 西部州 2. 中部州 3. 北中部州 4. 東部州
5. 北西部州 6. 南部州 7. ウバ州 8. サバラガムワ州

表 1 対象者の性別ごとの人数

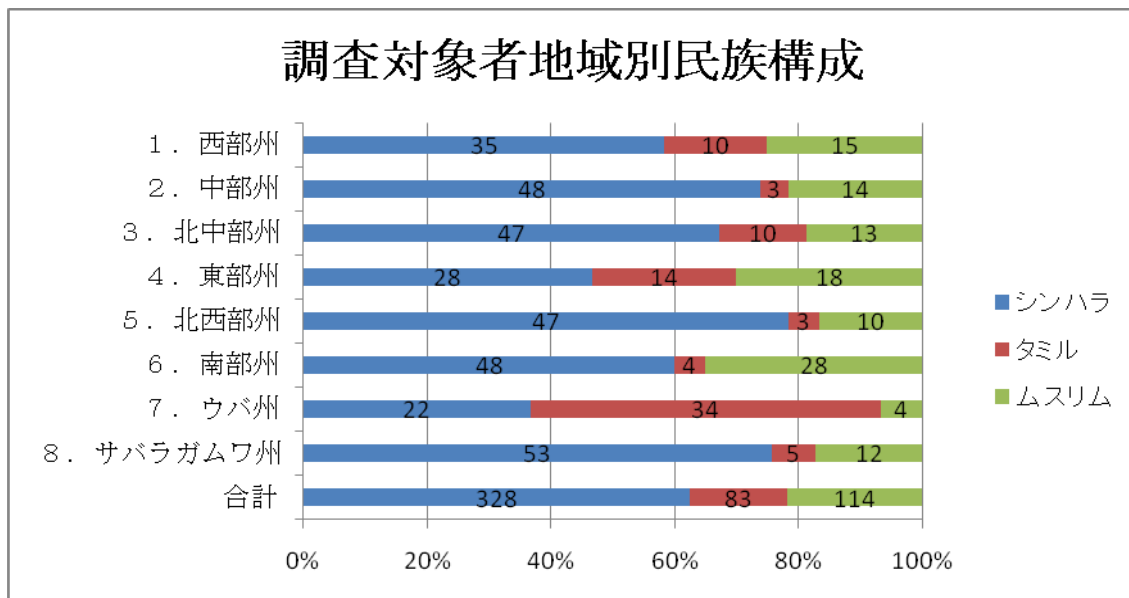
地域	男性	女性	合計
1	30	30	60
2	41	24	65
3	40	30	70
4	32	28	60
5	35	25	60
6	45	35	80
7	30	30	60
8	38	32	70
合計	291	234	525

表 2 対象者の民族ごとの人数

地域	シンハラ族	タミル族	ムスリム族	合計
1	35	10	15	60
2	48	3	14	65
3	47	10	13	70
4	28	14	18	60
5	47	3	10	60
6	48	4	28	80
7	22	34	4	60
8	53	5	12	70
合計	328	83	114	525

表 3 対象者の職業ごとの人数

地域	学生	社会人	主婦及び退職者	合計
1	20	31	9	60
2	9	48	8	65
3	13	41	16	70
4	13	34	13	60
5	16	35	9	60
6	20	43	17	80
7	12	43	5	60
8	13	45	12	70
合計	116	320	89	525



6. 調査地域説明

今回の調査では、調査対象者はほとんどの地域でシンハラ語母語話者が多かったが、ウバ州ではシンハラ語母語話者よりタミル人の母語話者が多かった。

今回調査ができなかった北部州はタミル人が主に滞在している地域が多くある。また、東部州、ウバ州の Badulla 区でもスリランカのほかの地域よりタミル語話者が居住しているが、スリランカでは調査時に洪水や土砂災害があり、調査することが困難だった。

図 2 調査地域 スリランカ図

(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%83%AA%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%AB>)



図 3 西部州



図 4 ウバ州



(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%83%AA%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%AB%E3%81%AE%E5%B7%9E>)

西部州 (Western Province) は、スリランカの西部に位置する州。同国で最も人口密度が高い州であり、首都スリジャヤワルダナプラ コッテと、行政と経済の中心地コロンボがある。州都はコロンボである。

ウバ州 (Uva Province) は、スリランカのセイロン中央山脈東側に位置する州。シンハラ語の発音にあわせ、「ウーワ」と表示することもある。標高 1200m 以上の地域は、高地高級茶であるウバ紅茶 (Uva tea) の産地として知られている。

本稿では 8 州の中で、首都コロンボがある西部州と、首都から約 220 km 離れた田舎のウバ州のシンハラ語話者とタミル語話者の言語使用状況について分析する。

7. 調査結果概要

本調査の結果、スリランカではどの地域においてもシンハラ語話者は基本的にシンハラ語で話しているが、場面によって英語を多く使う場合もある。シンハラ語話者同士でコミュニケーションを行う時にシンハラ語で話さずに英語だけを使用している調査対象者もいた。同じシンハラ人でも宗教によって状況に応じて英語を使用する人がいた (キリスト教徒が教会などで主に使う)。居住地、社会階層、職業によっては英語を使用することが多い。

また、タミル語話者はどの地域でもタミル語でコミュニケーションを行っていることがアンケート結果及びインタビューの結果で明らかになった。アンケートの答えによると、タミル語話者は場面によって母語以外にシンハラ語と英語でコミュニケーションを行って

いる人もいた。

シンハラ語話者もタミル語話者も、場面によって母語以外に英語でコミュニケーションを行っている。どの母語の話者でも教育レベル、職業、地域、社会階層によって英語を使用する人がいることも明らかになった。また、シンハラ語話者もタミル語話者も自分とは違う母語の話者とコミュニケーションを行う時には英語のコードスイッチングをしている。

さらに場面によって使用言語が異なる場合がある。調査結果から、シンハラ人やタミル人とは異なり、ムスリム人は地域に関係なくタミル語もシンハラ語も英語も使用していることが明らかになった。また、ムスリム人は場面によって英語、シンハラ語をよく使用している。ビデオ調査などにおいてもムスリム人は母語であるタミル語を大切にしている。

またムスリム人は相手および状況によってコードスイッチングを上手く使用しているようである。タミル語話者はシンハラ語と英語が話せない場合、シンハラ語話者とコミュニケーションをする際、困難を感じることもあると報告があった。

地域別では、西部州、中部州、南部州に住んでいるどの話者でも英語のレベルが高いことが明らかになった。西部州に住んでいるタミル人のタミル語話者はシンハラ語も英語もよく使用している。しかし、中部州の Nuwaraeliya 区、ウバ州の Badulla 区に住んでいるタミル人は社会階層、教育レベル、職業によって英語が使用できない人が多く見られた。従って中部州の Nuwaraeliya 区、ウバ州の Badulla 区に住んでいるシンハラ人はタミル語を使用している人が他の地域のシンハラ人より多い。

アンケート調査の結果、学生の調査対象者は授業をシンハラ語とタミル語で受け、科目として英語を学んでいる。また、シンハラ語話者とタミル語話者の学生で英語による授業を受けている人も多くいた。しかし、学校で友達と話す時にシンハラ語とタミル語の両方の言語でコミュニケーションを行っていることが報告があった。部活の時にも場合によって主に英語で話をするという述べていた。そして、シンハラ語話者でも、学校では場合によって英語やタミル語を使ってコミュニケーションを行っている。

シンハラ語話者は、家で両親や兄弟姉妹と話す際には英語とシンハラ語でコードスイッチングしながら話すことが明らかになった。タミル語話者は家では主にタミル語を使う人もいたし、タミル語、英語の両言語を使用する人もいた。祖父母と話す時にはシンハラ語やタミル語を使うとの報告があった。

ムスリム人の学生も家でタミル語と英語を話すと報告している。社会人は、仕事によってよく英語を使用している。外国人や、教育レベルが高い人たちが来る職場では、相手に対して主に英語でコミュニケーションを行う場合が多い。また、シンハラ語話者でも、仕事上の必要に応じてタミル語を使うことも分かった。

今回の調査では、ウバ州以外の地域ではシンハラ人の対象者が多かった。アンケート調査の回答によると、西部州に住んでいるシンハラ語話者はそれぞれの場面でシンハラ語と一緒に英語も使用していることが明らかになり、また、今回の 8 州の調査の中で中部州、南部州、Coastal Belt (南部州から北西部州の海岸エリア) の人達は母語より英語を多く使

用する。

8. アンケート調査場面区分

コミュニケーションを行う場면을4場面に分け、質問項目を立ててアンケート調査を行った。質問項目を立ててシンハラ語、タミル語で調査表を作った。

データを分析するにあたり、コミュニケーションを行う場面として設定した4つの場面は以下の通りである。

- 家庭での場面：家庭における朝と夜の食事などの日常生活について
- 学校での場面：部活動
- 職場での場面
- 社会での場面：市場、スーパーマーケットで買い物する場面、銀行、病院、郵便局

9. アンケート調査結果

9-1 家庭での場面

(1) 質問項目

家族のメンバーとどの言語で話しますか。

1-1・祖父母とどの言語で話していますか。

1-2・父母とどの言語で話していますか。

1-3・兄弟姉妹とどの言語で話していますか。

シンハラ語 英語 タミル語 他の言語 ()

1-4・お手伝いさんとどの言語で話しますか。

シンハラ語 英語 タミル語 他の言語 ()

1-5・どの言語の新聞を読みますか。

シンハラ語 英語 タミル語 他の言語 ()

1-6・どの言語のテレビ放送(チャンネル)を見ますか。

シンハラ語 英語 タミル語 他の言語 ()

1-7・インターネットを使う時にどの言語を使用しますか。

シンハラ語 英語 タミル語 他の言語 ()

1-8・電話の時にどの言語を使用しますか

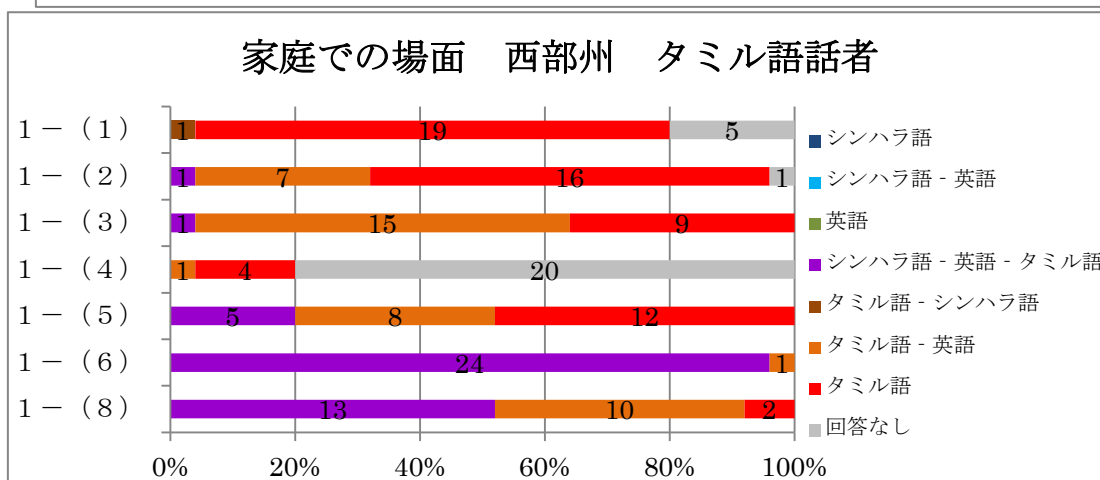
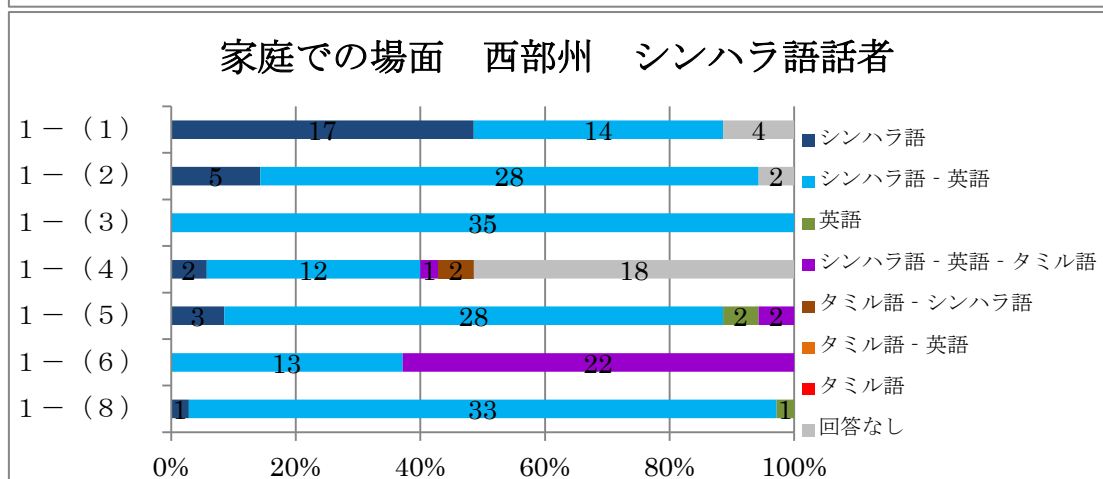
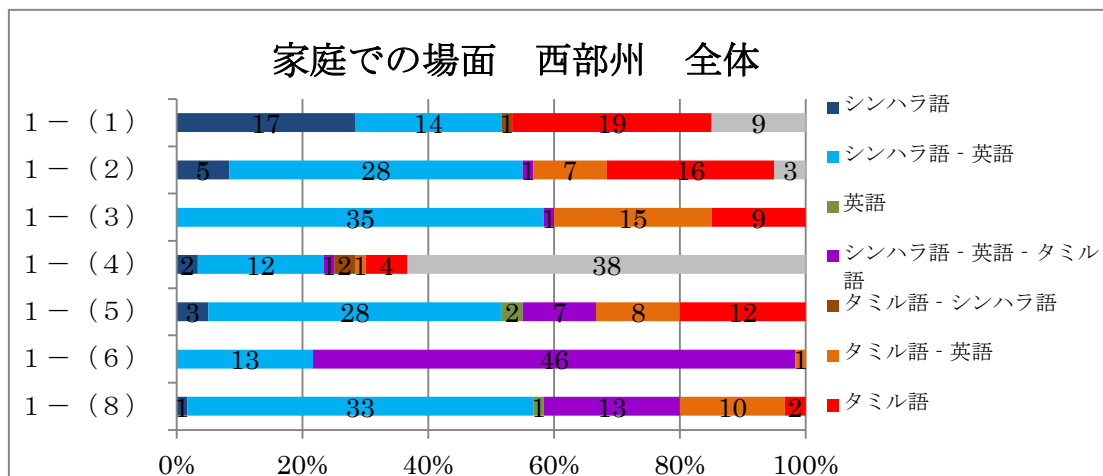
シンハラ語 英語 タミル語 他の言語 ()

※1-7については、質問はしたが、実際はインターネットを使用していないところが多く、またスリランカではインターネットでは英語のみ使用されている。

9-1 家庭での場面

(1) 西部州

家庭での場面 グラフ



① シンハラ語話者の言語使用

1-1

西部州のシンハラ語話者は、家庭の場面で祖父母とシンハラ語だけで話す人が約 47%、シンハラ語と英語のコードスイッチングをしながら話す人が約 40%であった。

1-2

3つの民族を比較すると、両親と家で話す場合、シンハラ語を使用する話者もいるが（約 14%）、シンハラ語と英語をコードスイッチングしながら話す人が数多く（約 80%）いる。調査対象者のうち、タミル語話者は、両親とタミル語で話すことが分かった。この割合は、シンハラ語話者が母語で話す割合より多い。また、シンハラ人は英語とシンハラ語両方の言語を使用することが多い。

1-3

シンハラ語話者は全員、兄弟姉妹とはシンハラ語と英語の両方を話していた。タミル語話者も兄弟姉妹と話す時、約 36%の人がタミル語で話し、約 60%はタミル語と英語のコードスイッチングを使用しコミュニケーションを行っている。

1-4

スリランカでは、裕福な家庭や医者、エンジニア、教師など専門職の家庭は使用人を雇っていることが多い。シンハラ人の家庭では使用人として、タミル人を雇う場合が多くある。時折、シンハラ人の使用人もいる。調査の結果によると、使用人とシンハラ語だけで話す人は約 6%であった。それよりもシンハラ語と英語のコードスイッチングをして話す調査対象者が多く、約 34%であった。また、タミル語が話せるシンハラ人の調査対象者が使用するとコミュニケーションを行う際、タミル語とシンハラ語の 2 言語で話す人も約 6%いる結果が得られた。3 言語のコードスイッチングをして使用人とコミュニケーションを行っている人もいた。

1-5

新聞を読む時は、シンハラ語話者のうち約 8%の話者はシンハラ語の新聞だけを読むことが分かった。英語の新聞だけ読むシンハラ語話者も約 6%いた。約 80%の人がシンハラ語と英語の新聞を読んでいるという報告があった。シンハラ語、タミル語、英語 3 言語の新聞を読む人は約 6%であった。

1-6

テレビを見る時は、どの民族でも 3 の言語のチャンネルを見る話者が多く見られた。この場面ではシンハラ人は約 62%の人が 3 つのチャンネルを見ている。シンハラ語と英語の

チャンネルを見る人は約 38%であった。

1-8

電話でコミュニケーションを行う場合、シンハラ語話者がシンハラ語だけで話す人と、英語のみで話す人は約 3%という傾向があった。それに対して、シンハラ語と英語でコードスイッチングをしながら電話で話す人は約 94%であった。タミル語話者と比べると、シンハラ語話者が電話でコミュニケーションを行う場合、シンハラ語及び英語のコードスイッチングを使用する人が多。

② タミル語話者の言語使用状況

1-1

76%は祖父母とタミル語だけを使用してコミュニケーションを行っている。西部州のムスリム人のタミル語話者については、祖父母とのコミュニケーションは、母語タミル語を使用していることがインタビューでわかった。ムスリム人タミル語話者の中では、タミル語とシンハラ語で話をしている人もいた。この場面について、この人は祖父がシンハラ人と結婚しているので、祖父母とはタミル語とシンハラ語で会話をするということであった。シンハラ語話者と比較すると、ムスリム人とタミル人の多くの人が母語タミル語でコミュニケーションを行っている。

1-2

調査対象者のうち、タミル語話者が両親とタミル語で話す人の割合は、シンハラ人がシンハラ語を使用する割合より多い。約 64%と多くの人がタミル語で話すことがわかった。タミル語と英語のコードスイッチングをしながら話す人は約 28%であった。さらに、3言語で両親と話す人は約 4%であった。この場面についてインタビューした時、その人の家族の祖母はシンハラ人と結婚しているため、子どももシンハラ語を話すことができるという報告があった。

1-3

シンハラ人と結婚しているために、シンハラ語、英語、タミル語の3言語を使用する人が約 4%であった。タミル語話者は、家庭で両親と話す時、英語とタミル語のコードスイッチングをする人が少なかったが、兄弟姉妹と話す時には多くの人がタミル語と英語のコードスイッチングをしていた。

1-4

インタビュー結果のデータによると、ムスリム人タミル語話者の家は使用人を雇わない。宗教的な理由や、ムスリム人の女性の多くがいつも家にいる習慣になっているためそのよ

うなことがある。しかし、タミル人の家庭はシンハラ人と同じように、専門家や裕福な人、首都に住んでいる人の家には使用人がいる。タミル人の家庭には主にタミル人の使用人がいるためタミル語でコミュニケーションを行うことが多い。タミル語話者の約 16%は使用人とタミル語でコミュニケーションを行っている。また、約 4%の人がタミル語と英語で会話をしている。

1-5

シンハラ人と比較すると、タミル語話者は家庭での場面で母語の新聞を読む人が、48%と多い。また、約 32%はタミル語と英語両方の言語を使用していると報告があった。シンハラ語話者と異なり、タミル語話者は同じ場面で 3 言語の新聞を読む人が約 20%であった。

1-6

シンハラ語話者と異なり、タミル語話者の約 96%がタミル語、英語、シンハラ語の 3 つのチャンネルを視聴している。タミル語と英語チャンネルを見る人が約 4 %であった。シンハラ語話者と比較すると西部州のタミル語話者が 3 言語のチャンネルを見ている人が多い。英語のチャンネルのみを視聴する人はほとんどいなかった。

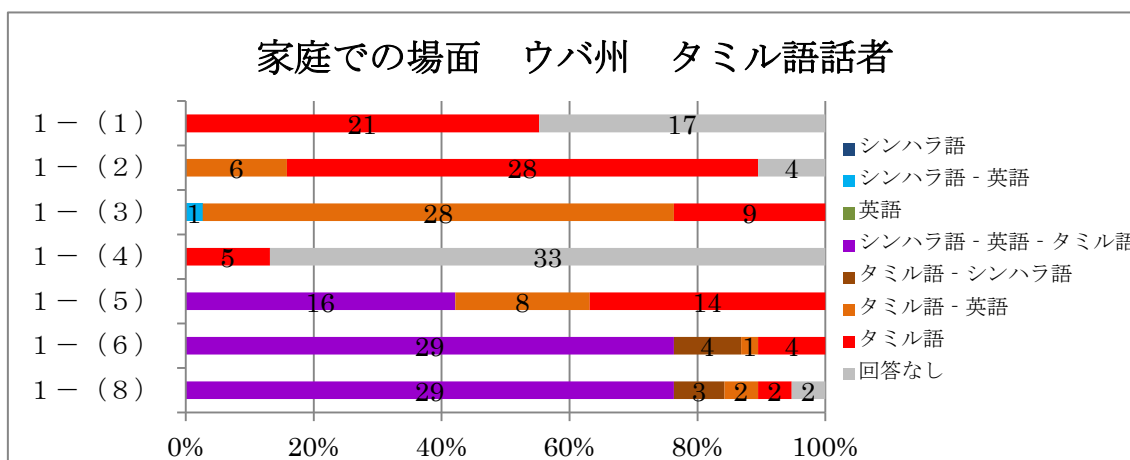
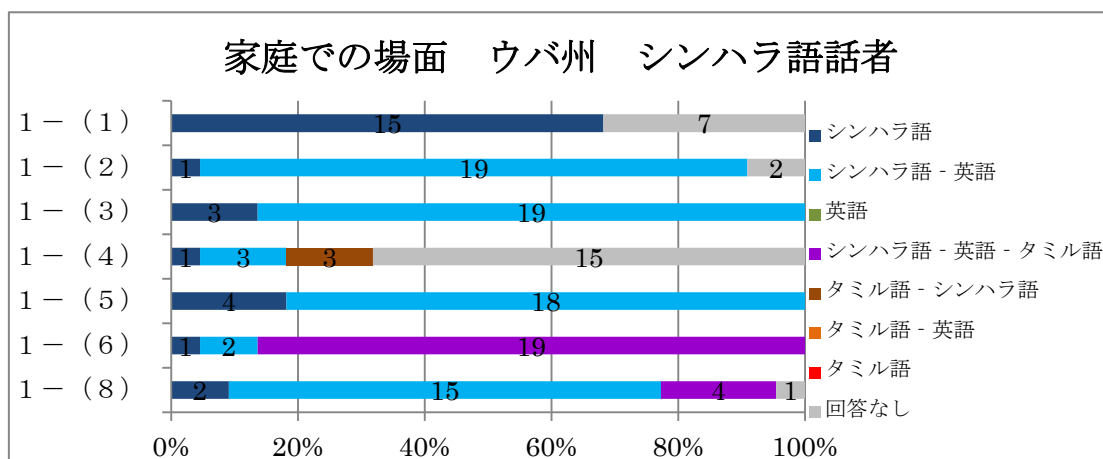
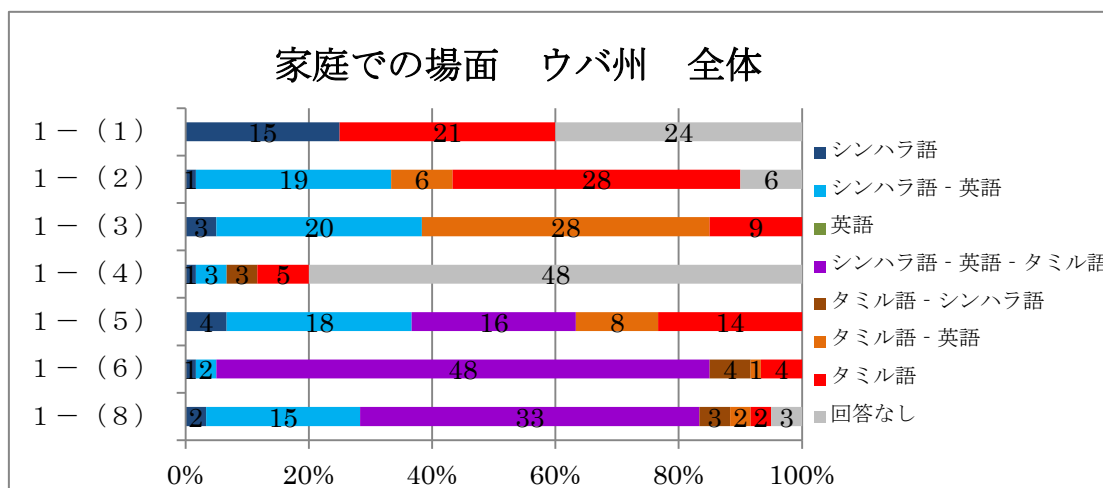
1-8

電話でタミル語のみを使用する人もいた。タミル語と英語を話す人は約 40%であった。3 言語でコミュニケーションを行うタミル語話者は約 52%であった。逆に、タミル語話者のうち、シンハラ語話者より、3 言語のコードスイッチングをする傾向があった。タミル語話者の中で、ムスリム人タミル語話者は、シンハラ人とタミル人よりも 3 言語を使用することが多いことがインタビュー結果からわかった。インタビュー結果によると、[ムスリム人はシンハラ人と接触する人が多いため、シンハラ語と英語もよく使用している]という結果が得られた。

9-1 家庭での場面

(2) ウバ州

家庭での場面 グラフ



① シンハラ語話者の言語使用状況

1-1

祖父母とコミュニケーションを行う際に、シンハラ語話者のうち、シンハラ語だけを使用する人は約 68%であった。また、その地域では調査対象者の家庭に祖父母がいない人や亡くなった人が多い。しかし、西部州のシンハラ語話者の家庭では、祖父母とコミュニケーションを行う時に、シンハラ語と英語のコードスイッチングをする人がいた。ウバ州の家庭のシンハラ語話者は母語と共に英語を使用する人はほとんどいなかった。

1-2

両親とコミュニケーションを行う時に、シンハラ語のみを使用するシンハラ語話者が少なく、約 86%の人がシンハラ語と英語のコードスイッチングをする。

1-3

兄弟姉妹と話す場面では、シンハラ語話者のうち約 14%がシンハラ語だけを使用する。しかし、同じ場面で英語とシンハラ語のコードスイッチングをしているシンハラ人は約 86%と多かった。

1-4

西部州と比較してウバ州の家庭で使用人を雇う家はほとんどない。ムスリム人タミル語話者の家庭には、西部州と同じように使用人がいないという報告があった。ウバ州のシンハラ人の家庭において、使用人とタミル語のみでコミュニケーションを行う人は約 5%であった。シンハラ語と英語のコードスイッチングをして使用人と話す人も約 13.5%いた。また、タミル語とシンハラ語でコミュニケーションを行う人もいる。しかし、西部州と比較すると、ウバ州ではシンハラ人の家庭は使用人を雇わないことが多い。

1-5

新聞を読む場面を見ると、シンハラ語と英語の新聞を読む人は約 82%であった。約 18%の人はシンハラ語の新聞だけ読んでいる。西部州のシンハラ語話者には英語の新聞のみを読む人がいたが、ウバ州では英語の新聞のみを読む人はいなかった。

2つの地域のタミル語話者と比較すると、シンハラ語話者は 3 言語の新聞を読む人はほとんどいない。

1-6

テレビを見る場面のデータを見ると、シンハラ語のチャンネルだけを見るシンハラ人が約 5%であった。シンハラ語と英語のチャンネルを見る人は約 9%いるが、3 言語のチャン

ネルを見る人は約 86%と多い。

1-8

電話の場面では、シンハラ語と英語を使用する人が約 68%と、他の民族より多くいた。その一方で、シンハラ語のみで電話をする人もいた。また、西部州と違って、ウバ州のシンハラ人は電話をする時に 3 言語を使用する人が約 18%であった。

② タミル語話者の言語使用状況

1-1

祖父母とコミュニケーションを行う場合、タミル語だけを使用する傾向があった。

1-2

ウバ州のタミル語話者は、ウバ州のシンハラ人と比較すると、両親とコミュニケーションを行う時にタミル語のみ使用する人が多く、約 74%であった。その中で、タミル語と英語のコードスイッチングをする人が約 16%いた。3 言語を使用するタミル語話者がいるデータは見られなかった。タミル語話者にインタビューを行ったところ、[ムスリム人のタミル語話者はシンハラ人やタミル人と違い、全員タミル語母語のみで両親とコミュニケーションを行っている]という報告があった。

1-3

ウバ州のタミル語話者は兄弟姉妹と話す際、タミル語のみで話す人が約 24%であった。タミル語と英語のコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行う人が全体の約 74%と、多い。

1-4

タミル人の家庭もほとんど使用人を雇わないというデータが多かったが、使用人を雇うタミル人の家庭のうちでは 13%の人がタミル語のみで話をしているという報告があった。

1-5

タミル語話者のうち、タミル語、英語、シンハラ語の 3 言語で新聞を読んでいる人は約 42%であった。約 37%の人はタミル語のみで新聞を読むが、約 21%はタミル語と英語の新聞を読んでいる。西部州のタミル語話者と比較すると、ウバ州のタミル語話者はタミル語、シンハラ語、英語の 3 言語の新聞を読む人が多くいる。2つの地域のタミル語話者と比較すると、シンハラ語話者で 3 言語の新聞を読む人はほとんどいない。

1-6

ウバ州のタミル語話者のうちタミル語だけのチャンネルを見る人は約 10%であった。また、この地域のタミル人は 3 言語のテレビを見ている人が約 78%いた。タミル語と英語のチャンネルを見る人もいる。

1-8

電話の際、タミル語だけで相手と話す人は約 5%であった。英語とタミル語で話す人は約 5%であり、残りの約 78%は 3 言語で電話をするという報告があった。タミル人の場合、タミル語だけで電話をする人もいる。また、タミル語、シンハラ語のコードスイッチングをしながら電話をする人は約 7%いることがわかった。

9-1 家庭での場面

(4) 小括

西部州のシンハラ語話者は、祖父母とコミュニケーションを行う際、多くの人が母語シンハラ語と英語のコードスイッチングをしている。しかし、ウバ州では祖父母と母語シンハラ語のみでコミュニケーションを行っている。西部州では英語を使用する機会が多いため、母語シンハラ語と共に英語のコードスイッチングをする人が多いが、田舎のウバ州では英語に接触する機会が少ない。

2つの地域のタミル語話者は、祖父母とコミュニケーションを行う時、タミル語のみを使用する。しかし、家庭での場面のウバ州のシンハラ語話者の使用言語状況を考えると、田舎に住んでいると英語に接触する機会がほとんどないため、祖父母はシンハラ語と英語のコードスイッチングをすることがない。西部州の年配者で医者やエンジニア、教師など専門職の人は、家庭内でシンハラ語と共に英語もよく使用する。また、首都に住んでいる年配者は様々な社会人と接触する機会があるため、シンハラ語と英語のコードスイッチングをするのが普通だと考えられる。

西部州とウバ州のシンハラ語話者は両親とコミュニケーションを行う場合、シンハラ語と英語のコードスイッチングを使用することが多かった。しかし、西部州とウバ州のタミル語話者は両親とコミュニケーションを行う際、タミル語を使用することが多いが、タミル語と英語のコードスイッチングをする人もいる。そして、両親と話す場合もシンハラ語話者は英語とシンハラ語のコードスイッチングをよく使用する。ウバ州のシンハラ語話者の多くはシンハラ語と英語のコードスイッチングをする人が多くいた。西部州でもウバ州でも、シンハラ語話者は兄弟姉妹・両親とコミュニケーションを行う際、シンハラ語と英語でコードスイッチングをすることが多い。西部州の全てのシンハラ語話者が兄弟姉妹とコミュニケーションを行う際、シンハラ語と英語を使用する。

タミル語話者は、兄弟姉妹とコミュニケーションを行う時に、場合によっては、母語以外に英語を使用することが多い。

使用人を雇う場面では、西部州のシンハラ語話者はシンハラ語で使用人とコミュニケーションを行っていたが、シンハラ語と英語を使用している。

また、テレビを見る時はどの話者でも 3 言語のチャンネルを見ている。ウバ州のシンハラ語話者はタミル語が話せる人もいるため、その場合使用人とタミル語でコミュニケーションを行うという結果が得られた。ムスリム人タミル語話者の家では宗教などの様々な理由により、使用人を雇わない。新聞を読む場面では、シンハラ語話者の多くはシンハラ語と英語の新聞を読む傾向があった。また、西部州では英語のみで新聞を読む人もいた。さらに、シンハラ語話者より、タミル語話者の方が、タミル語の新聞を読む人が多い。シンハラ語話者と比較するとタミル語話者は、タミル語、シンハラ語、英語の 3 言語で新聞を読むことが多い。

西部州のシンハラ語話者は、テレビを見る時にシンハラ語と英語のチャンネルを見る人がいたが、3 言語のチャンネルを見る人もいた。しかし、ウバ州のシンハラ語話者は、西部州のシンハラ語話者より、3 言語のチャンネルを見ている人が多。これらのことから、ウバ州に住んでいる人は西部州に住んでいる人よりも、タミル語話者と接触する機会が多くあるため、3 言語の使用が多い。2つの地域のタミル語話者は、テレビを見る時も 3 言語でテレビチャンネルを見ることが多い。新聞、テレビ、電話を使用する場合、西部州とウバ州のタミル語話者はシンハラ語話者より 3 言語の使用が多いという結果が得られた。どの地域でも、シンハラ語話者は電話をする時、シンハラ語と英語の両方の言語でコードスイッチングをし、コミュニケーションを行っている。家庭での場面におけるシンハラ語話者の言語使用状況みると、どの場面でもシンハラ語と英語を使用しているという結果が得られたので、両方の言語でコードスイッチングをしてコミュニケーションを行っている。タミル語話者は、シンハラ人と比較して、どの場合でもタミル語を使用することが多く、タミル語、シンハラ語、英語の 3 言語を使用することも多い。

9-2 学校での場面

(1) 質問項目

学校での場面を分析するにあたり、学生を高校生・大学生、職業を専門職・商業・公務員・会社員に分類し、調査対象者全員に回答してもらった。

●学校の場面

2-1・教師とはどの言語で話しています／いましたか。

シンハラ語 英語 タミル語 他の言語

2-2・授業の中でどの言語が一番多く使われますか／ましたか

シンハラ語 英語 タミル語 他の言語

2-3・友達同士でどの言語を使って話をしていますか／いましたか

シンハラ語 英語 タミル語 他の言語

●学校外活動・部活動での場面

3-1・クラブのメンバーが集まった時に主にどの言語を使ってコミュニケーションを行っていますか

シンハラ語 英語 タミル語 他の言語

3-2・クラブのリーダーや教師とコミュニケーションを行う言語はどれですか

シンハラ語 英語 タミル語 他の言語

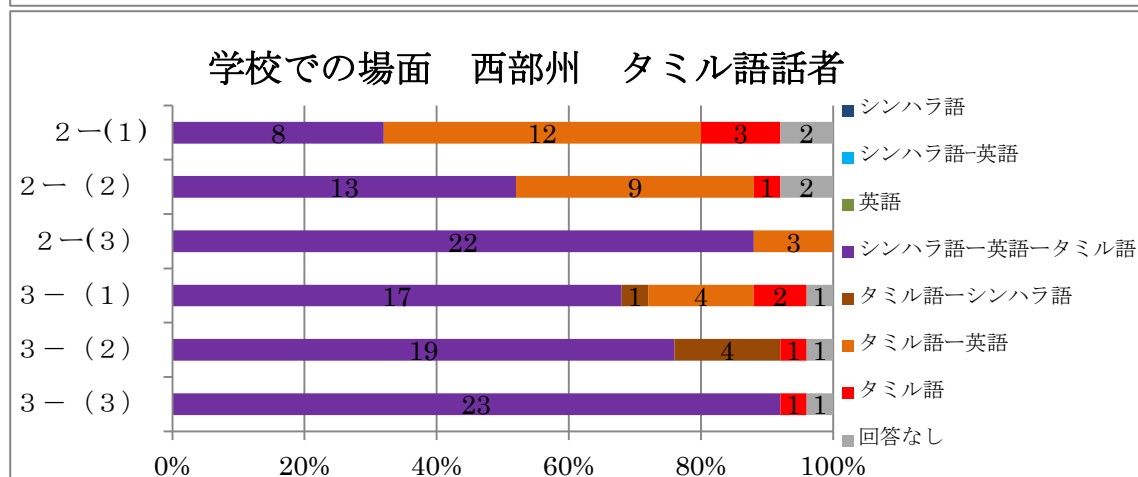
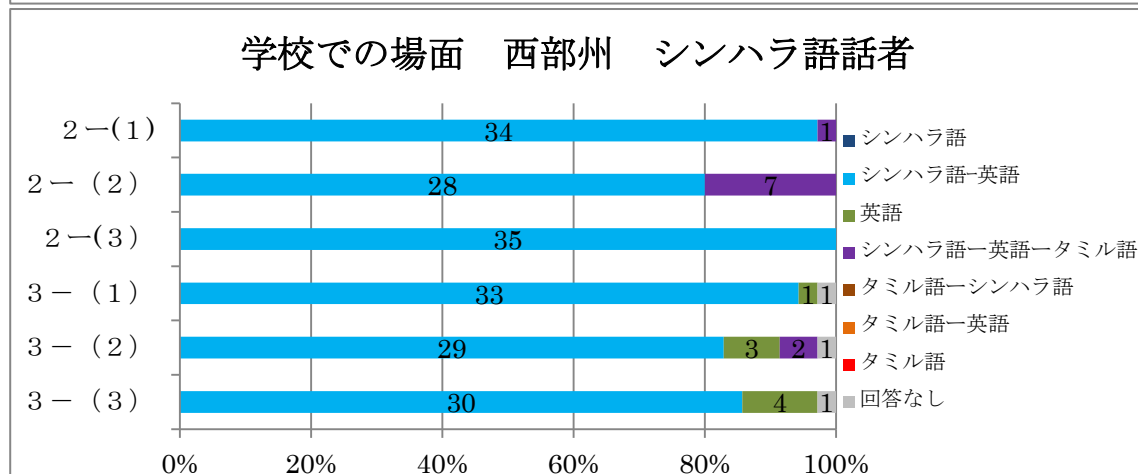
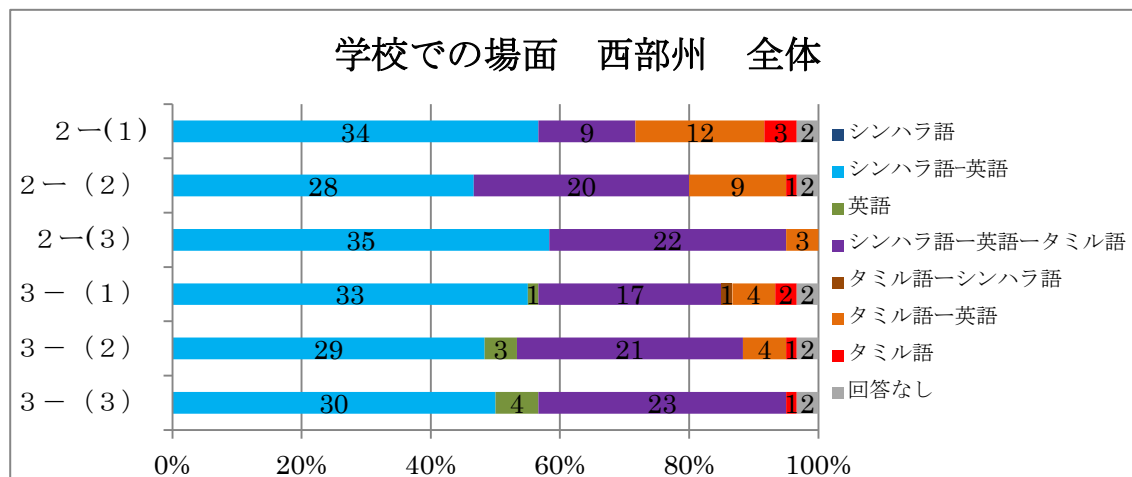
3-3・クラブの大会などで、初対面の人とコミュニケーションを行う時にどの言語を使いますか

シンハラ語 英語 タミル語 他の言語

9-2 学校での場面

(1) 西部州

学校での場面 西部州 グラフ



① シンハラ語話者の言語使用状況

2-1

学校での場面では、教師とコミュニケーションを行う時に、シンハラ語と英語の両言語でコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行う人が全体の 98%であった。同じ質問で、教師とシンハラ語、英語、タミル語の 3 言語を使用する人は 2%であった。

2-2

授業の中で多く用いられている言語に関する質問に対して、約 80%の人がシンハラ語と英語の両方であるという回答が得られた。また、同じ質問について約 20%の人が 3 言語を使用して授業をするという回答が得られた。この質問に対してインタビューをした際に、「学校でタミル語を習っているため、タミル語も使用する」という答えが多かった。

2-3

学校にいる時に、友達同士でどの言語でコミュニケーションを行っているかという質問に対して調査対象者全員がシンハラ語と英語のコードスイッチングをしているという報告があった。この質問に対してインタビューをした際に、「友達とコミュニケーションを行う時、シンハラ語だけで話すことがほとんどない」という答えがあった。友達同士で話す時、英語とシンハラ語を話すのが一般的であるという報告があった。

3-1

クラブのメンバーが集まった時に、2%の人が英語のみ使用し、95%の人がシンハラ語と英語を使用する。

3-2

クラブのリーダーや教師とコミュニケーションを行うことについて、約 8%の人が英語のみでコミュニケーションを行っている。3 言語を使用する人は約 5%であった。2%の人が無回答であった。83%の人が、シンハラ語と英語のコードスイッチングをしてコミュニケーションを行っている。3 言語を使用するシンハラ語話者にインタビューをした際に、「クラブではタミル人の教師がいるため、シンハラ語と英語だけでコミュニケーションを行うのではなく、場合によってタミル語でも混ぜてコミュニケーションをしている」と報告した。

3-3

部活動の関係で大会等に参加した時に、約 12%の人が初対面の人達と英語のみでコミュニケーションを行っている。約 2%の人はこの質問に対して無回答であったため、その件についてインタビューをすると、大会に参加した経験がないという答えがあった。また、86%

の人がシンハラ語と英語のコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行っている。

② タミル語話者の言語使用状況

2-1

48%の人が教師と、タミル語と英語のコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行っている。タミル語、シンハラ語、英語の3言語を使用し、教師とコミュニケーションを行う人が約32%であった。タミル語のみでコミュニケーションを行う人が12%であった。また、無回答の人も約6%いた。3言語で教師とコミュニケーションを行う人にインタビューをした際に、学校でシンハラ人の教師もいたり、シンハラ語の授業も受けていたりしているのでシンハラ人の教師とコミュニケーションを行う時に3言語を使用するという報告があった。また、シンハラ人の教師と話す場合、シンハラ語が分からない時に英語からシンハラ語に切り替えて繰り返し話をするという答えがあった。

2-2

授業の中で多く用いられている言語に関する質問に対して、シンハラ語、タミル語、英語の3言語で授業を受けているという人が52%であった。タミルと英語で授業を受けている人は36%であった。この質問について無回答の人もいた。タミル語のみで授業を受けた人は4%であった。タミル人のタミル語話者に、3言語で授業を受けていることについてインタビューをした時に、学校でタミル語以外にシンハラ語と英語で授業を受けているという報告があった。

2-3

友達と3言語でコミュニケーションを行う人は約88%であった。この質問についてインタビューをした時に、学校でシンハラ人の友達もいるのでタミル語だけでなく3言語を使用するといい、タミル語ができない時に、英語とシンハラ語のコードスイッチングによりコミュニケーションを行っているという報告があった。友達同士でタミル語と英語のコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行う人は約12%であった。この質問に対してインタビューをした際に、タミル人の友達とコミュニケーションを行う時に、タミルと共に英語も使用すると報告した。

3-1

部活の場面でメンバーとコミュニケーションを行う時は、タミル語、シンハラ語、英語の3言語を使用する人が68%であった。この質問についてインタビューをした時に、「クラブではシンハラ人とタミル人がいるので3言語を使用する」という報告があった。同じ質問で、クラブのメンバーと、タミル語と英語でコードスイッチングをしてコミュニケーシ

ョンを行う人は 16%であるという結果が得られた。クラブのメンバーとタミル語のみでコミュニケーションを行う人は 6%であった。また、タミル語とシンハラ語でコミュニケーションを行う人も 3%いた。同じ場面で無回答の人もいた。

3-2

クラブの教師やリーダーとコミュニケーションを行う時に、約 76%の人が 3 言語を使用するという回答が得られた。この質問についてインタビューをした時に、「クラブの教師やリーダーがタミル人もシンハラ人もいるので 3 言語を使用することが多い」という答えがあった。タミル語と英語のコードスイッチングをしてコミュニケーションを行う人は 16%であった。タミル語のみでコミュニケーションを行う人も 4%いた。

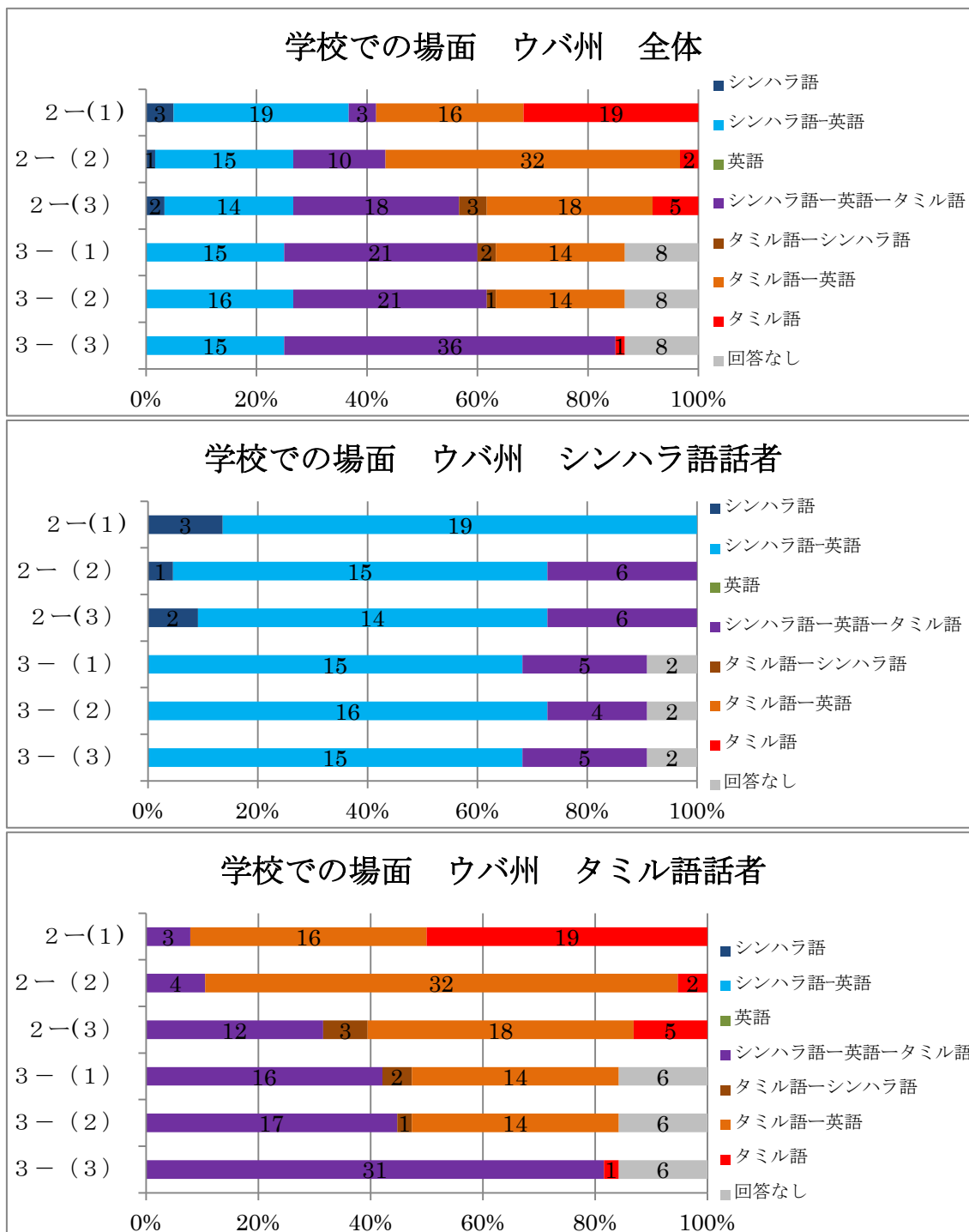
3-3

クラブの大会が行われる時に、初対面で会う人達とコミュニケーションを行う時、92%の人が 3 言語を使用している。この質問についてインタビューをした際に、「シンハラ人と初対面で会った時にシンハラ語だけで話すことができない場合、英語やタミル語も使用する」という答えがあった。約 4%の人が、大会の時に初対面の人達とタミル語のみでコミュニケーションを行っている。

8-2 学校での場面

(2) ウバ州

学校での場面 グラフ



① シンハラ語話者の言語使用状況

2-1

教師とシンハラ語のみでコミュニケーションを行う人は 13. 5%であった。シンハラ語と英語のコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行う人は 86. 5%であった。

2-2

学校の授業の時に用いられる言語について 68%の人がシンハラ語と英語の両言語で授業を受けている。タミル語、シンハラ語、英語の 3 言語で授業を受けている人も 27%いた。5%の人がシンハラ語のみで授業を受けていた。シンハラ語のみで授業を受けた人は、主婦でかつ高齢者であった。その人たちは学校に通っていたころ、スリランカのその地域の学校では英語やタミル語の授業は行われていなかったという報告があった。

2-3

友達同士でシンハラ語と英語でコミュニケーションを行う人は 64%であった。シンハラ語、英語、タミル語の 3 言語でコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行う人が 27%であった。また、シンハラ語のみでコミュニケーションを行う人も 9%いた。この質問についてインタビューをした際に、自分が学校へ通っていた頃、英語もタミル語も使用しなかったため友人とシンハラ語のみでコミュニケーションを行っていたという報告があった。

3-1

学校の部活についての質問では、クラブのメンバーが集まった時に、シンハラ語と英語のコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行う人が 68%であった。23%の人が、英語、シンハラ語、タミル語の 3 言語でコードスイッチングをしてコミュニケーションを行っている。この質問に無回答の人もいたが、その人が学校の部活動に参加しなかったという報告があった。

3-2

クラブのリーダーや教師と、シンハラ語と英語でコードスイッチングをしてコミュニケーションを行う人が 73%多くいた。シンハラ語、英語、タミル語の 3 言語で教師やリーダーとコミュニケーションを行う人は 18%であった。学校の部活動に参加しない人もいた。西部州の調査対象者には、部活動の時に教師やクラブのリーダーと英語でコミュニケーションを行う人もいたが、ウバ州では部活動の場面では英語でコミュニケーションを行う人はいなかった。

3-3

大会等に参加した場合、初対面の人たちと、シンハラ語と英語のコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行うという人が 68%いた。シンハラ語、英語、タミル語の 3 言語でコミュニケーションを行う人は 23%いる結果が得られた。この質問の時も、西部州の調査対象者の中では大会の時に初対面の人と会った時に英語のみでコミュニケーションを行う人がいたが、ウバ州ではいなかった。

② タミル語話者の言語使用状況

2-1

50%の人がタミル語のみで教師とコミュニケーションを行っている。タミル語と英語でコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行う人も約 42%いた。また、シンハラ語、英語、タミル語の 3 言語で教師とコミュニケーションを行う人は 8%であった。タミル語のみで教師とコミュニケーションを行う人にインタビューをした時に、「学校にはタミル人の教師が多くいるのでタミル語のみでコミュニケーションを行う場合が多くある」と答えた。

2-2

授業の中で多く用いられている言語に関する質問に対して、タミル語と英語で授業を受けているという人が 84%であった。タミル語、シンハラ語、英語の 3 言語で授業を受けた人も約 11%いた。タミル語話者が、3 言語で授業を受けていることについてインタビューをした時に、「学校でタミル語以外にシンハラ語と英語で授業を受けている」と報告した。タミル語のみで授業を受けている人は約 5%であった。

2-3

友達と 3 言語でコミュニケーションを行う人が約 31.5%であった。この質問についてインタビューをした時に、学校でシンハラ人の友達もいるので彼らはタミル語だけで話すことができない場合、3 言語を使用するという報告があった。友達同士でタミル語と英語のコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行う人が約 47.5%いた。また、タミル語のみで友達とコミュニケーションを行う人も約 13%いたがタミル語とシンハラ語でコミュニケーションを行う人は 8%であった。

3-1

部活の場面ではメンバーとコミュニケーションを行う時は、タミル語、シンハラ語、英語の 3 言語を使用する人が 42%であった。この質問についてインタビューをした時に、クラブではシンハラ人とタミル人がいるので 3 言語を使用するという報告があった。クラブのメンバーと、タミル語と英語にコードスイッチングをしてコミュニケーションを行う人

も約 36.5%いた。タミル語とシンハラ語でコードスイッチングをしてコミュニケーションを行う人も 5%いた。

また、無回答の人もいた。この質問についてインタビューをしたところ、「クラブには参加していない」という報告があった。

3-2

クラブの教師やリーダーとコミュニケーションを行う時に、約 45%の人が 3 言語を使用するという報告があった。この質問についてインタビューをした時に、クラブの先生方やリーダーにタミル人もシンハラ人もいたので、3 言語を使用することが多くあると答えた。また、タミル語と英語のコードスイッチングをしてコミュニケーションを行う人が約 37%いた。この質問に無回答の人もいた。タミル語とシンハラ語でコミュニケーションを行っている人が約 2%であった。

3-3

初対面で会う人とコミュニケーションをする時に、81%の人が 3 言語を使用している。この質問についてインタビューをした時に、シンハラ人に初対面で会った時にシンハラ語だけでコミュニケーションを行うことができない場合、英語やタミル語も使用するという答えがあった。また、タミル語のみでコミュニケーションを行う人は約 3%であった。

8-2 学校での場面

(4) 小括

西部州とウバ州のシンハラ語話者は、教師とコミュニケーションを行う際に、シンハラ語と英語のコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行う場合が多い。しかし、西部州のシンハラ語話者は、シンハラ語のみで教師とコミュニケーションを行うケースはほとんどみられなかったが、ウバ州ではシンハラ語のみで教師とコミュニケーションを行う人がいた。学校の授業では、シンハラ語、英語以外にもタミル語の授業も行う学校もある。西部州では、タミル語の授業の有無は各学校によって異なる。

西部州と比較すると、ウバ州にはタミル人の割合が多い。西部州の学校でもタミル語の授業が行われるところがあるが、西部州に住んでいるシンハラ人とタミル人が接触するチャンスは少ない。また、西部州の学校でもタミル人はいるがシンハラ人と接触する時に、タミル語だけではなく、3言語を使用することが多い。しかし、ウバ州の学校ではシンハラ人もタミル語を勉強するが、学校の中でも多くのタミル人がいるため、タミル語に接触するチャンスが多くある。そして、西部州の学校とウバ州の学校の場面の結果をみると、西部州のシンハラ人より、ウバ州のシンハラ人は、シンハラ語、英語と一緒にタミル語もよく使用している。

ウバ州の学校の場面では、シンハラ語話者がシンハラ語のみでコミュニケーションを行っているという傾向があった。しかし、ウバ州と比較すると、西部州のシンハラ人は学校での場面ではシンハラ語のみでコミュニケーションを行うことは少なく、シンハラ語と英語のコードスイッチングをしている場合が多い。

また、西部州の学校では部活動の場面で、クラブの教師やリーダーと英語のみでコミュニケーションを行う人もいた。しかし、西部州と比較すると、ウバ州の学校での場面では、クラブ活動の時に英語を使用するという回答はなかった。西部州の学校ではクラブの大会がある時に、シンハラ人が初対面で会う人と英語のみでコミュニケーションを行う人がいた。ウバ州ではクラブの大会の時に、初対面で会う人と英語のみでコミュニケーションを行うことはみられなかったが、3言語で初対面の人とコミュニケーションを行っていた。

それにより、西部州の学校では、シンハラ語話者は他人とコミュニケーションを行う場合、英語を使用する場面があった。また、西部州の学校とウバ州の学校をみると、西部州の学校の教育レベルの方が高いこともあり、西部州の人が英語のみでコミュニケーションを行う場面もある。

学校での部活動では誰でも主に、自分の母語と共に英語を使用している。また、西部州の学校ではクラブの部活動の場面ではシンハラ語とタミル語より英語の使用が多い。

シンハラ人もタミル人も友達や教師とコミュニケーションを行う時に、自分の母語と共に英のコードスイッチングをしていた。

9-3 職場での場面

(1) 質問項目

職場での場面を分析するにあたって、本調査対象者の職業を専門職、商業、公務員、会社員、農業等に分け、分析した。この場面のグラフを作る際に、中高生、大学生、主婦、無職は、「仕事なし」の調査対象者として数えていない。

職場の場面では以下の質問をした。

● 職場での場面 質問項目

4-1・仕事でどの言語を使用し読み書きしますか。

4-2・仕事の時にテレビやラジオなどをどの言語のチャンネルで視聴していますか。

4-3・それぞれの仕事に対して上司（社長、校長先生、会社員、教師、医者、大臣）とどの言語で話をしていますか。

・シンハラ人と一緒に：

・タミル人と一緒に：

・ムスリム人と一緒に：

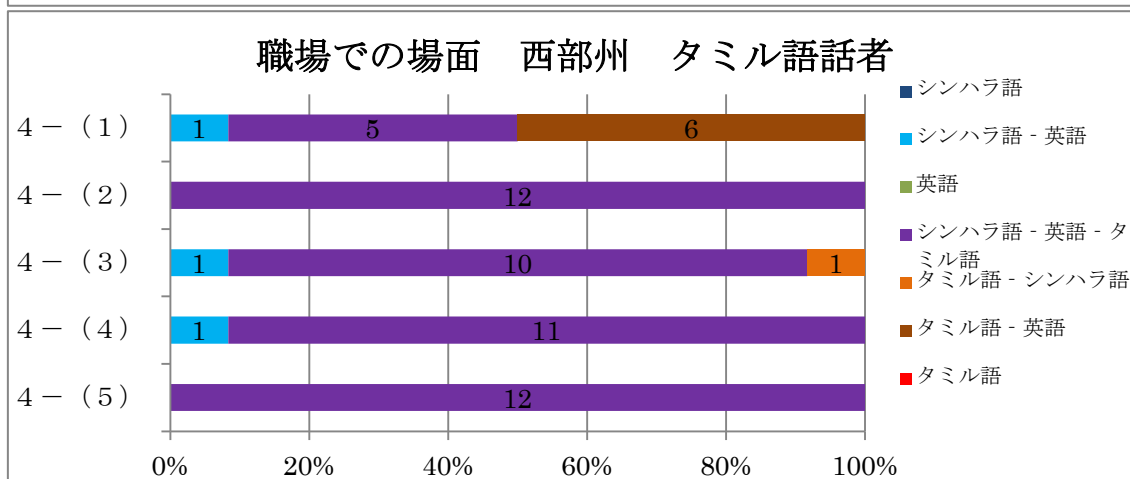
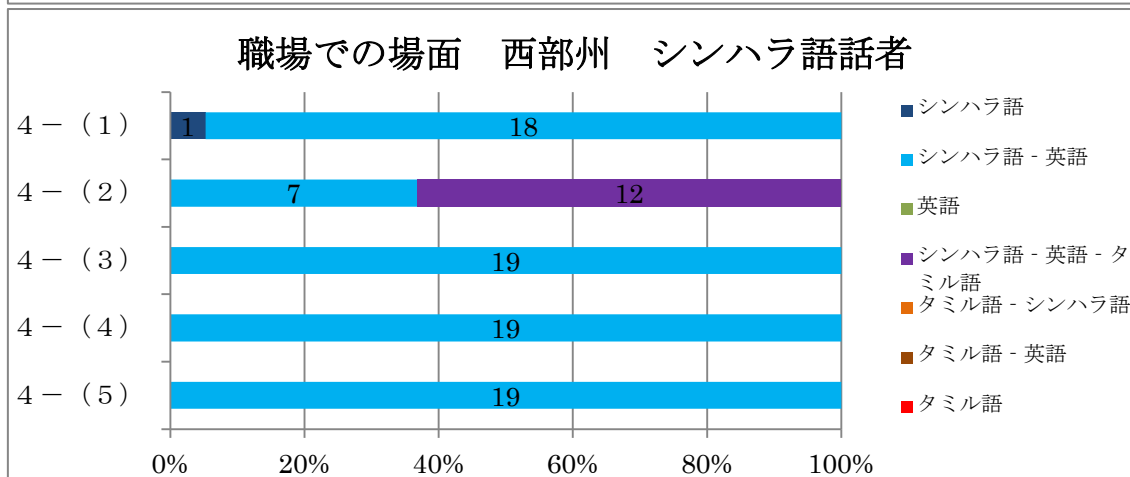
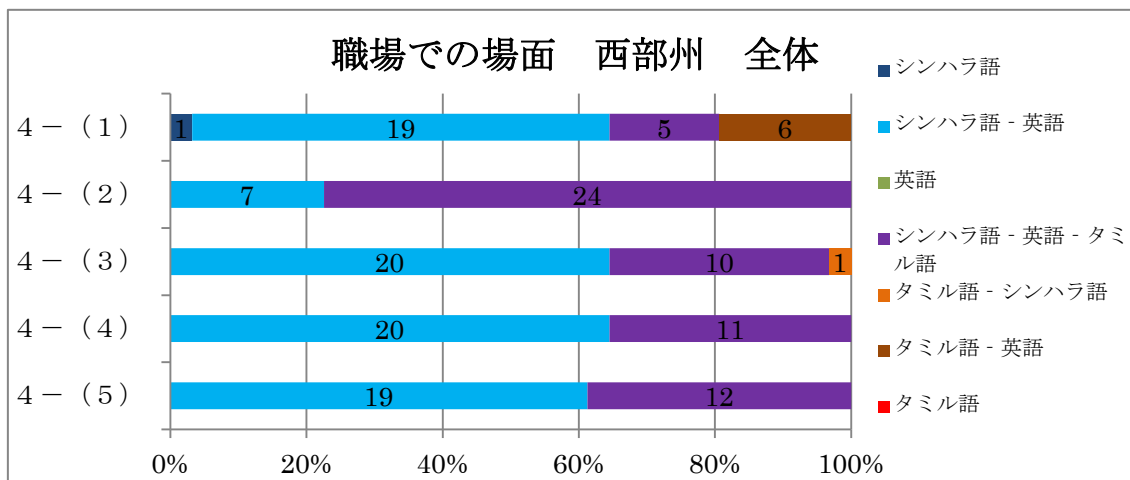
4-4・職場の同僚とどの言語を使ってコミュニケーションを行っていますか。

4-5・職場に来る客と英語・シンハラ語・タミル語・他の言語で話していますか。

9-3 職場での場面

(1) 西部州

職場での場面 グラフ



① シンハラ語話者の言語使用状況

4-1

職場で文章を読み書きする時はシンハラ語と英語を使用する人が全体の 95%であった。シンハラ語のみで読み書きする人は 5%という結果が分かったが非常に少ない。しかし、英語のみ使用する人はいなかった。

4-2

テレビを見たりラジオを聞いたりする時の質問に対して、63%の人が 3 言語のチャンネルを使用している。シンハラ語と英語のチャンネルを見る人は 37%であった。シンハラ語のチャンネルのみ見ている人はいなかった。

4-3

職場の上司（社長、校長先生、会社員、先生、医者、大臣）とコミュニケーションを行う時に、シンハラ人の調査対象者の全員がシンハラ語と英語のコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行っている。

4-4

シンハラ語話者は全員、職場の同僚と休憩時間にコミュニケーションを行う際に、シンハラ人同士ではシンハラ語と英語のコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行うという報告があった。シンハラ人はタミル語を話せる人が少ない。

4-5

職場に来る客に対しての質問では、全てのシンハラ語話者が、シンハラ語と英語のコードスイッチングをしてコミュニケーションを行っているという報告があった。

② タミル語話者の言語使用状況

4-1

タミル語話者は、シンハラ人と違って 3 言語を使用する人が 42%と多くいた。また、職場での読み書きは、タミル語と英語を使用する人が 50%いる結果が得られた。シンハラ語と英語を使用する人は 8%と非常に少ない。

4-2

タミル語話者は 3 言語のチャンネルを視聴している。彼らは主にシンハラ人と多く接触する職場で働いているため、シンハラ語と英語のチャンネルを視聴するという報告があった。ムスリム人のタミル語話者にインタビューした結果、彼らは仕事場で主にシンハラ語

とタミル語の話者と接触する機会が多くあり、家庭より職場で 3 言語のチャンネルを視聴する機会が多くあるという報告があった。そして、多言語社会の中に住んでいるために、別の言語の話者とコミュニケーション行う上で、シンハラ語と英語はいつでも役に立つという報告があった。

4-3

職場の上司とコミュニケーションを行う時に、タミル人の場合、シンハラ人と異なり、英語、シンハラ語、タミル語の 3 言語を使用する人は 84%と多くいる。シンハラ語と英語で話す人も 8%いて、シンハラ語とタミル語でコードスイッチングをしながら話す人もいた。この場面についてインタビューをした時に、「上司の多くがシンハラ人なので、英語とシンハラ語でコミュニケーションを行っているという」報告があった。また、「会社の上司はタミル語もできるし、職場にもシンハラ人以外にムスリム人もタミル人もいるので 3 言語を使用することも多くある」という報告があった。西部州にいるタミル語話者はシンハラ語話者と違って、母語以外にシンハラ語も英語もよく使用している。タミル人のタミル語話者とムスリム人のタミル語話者が職場では、3 言語で上司とコミュニケーションを行っている。

4-4

タミル語話者のうち、92%は同僚とシンハラ語、タミル語、英語の 3 言語でコミュニケーションを行っているという報告があった。タミル人の職場では、シンハラ人のスタッフが多くいるため、シンハラ語と英語でのコミュニケーションを行っている。また、シンハラ語と英語で友達とコミュニケーションをする人も 8%であった。この結果についてインタビューをした時に、職場ではシンハラ人の友達が多くいるため、英語とシンハラ語でコミュニケーション行うという報告があった。

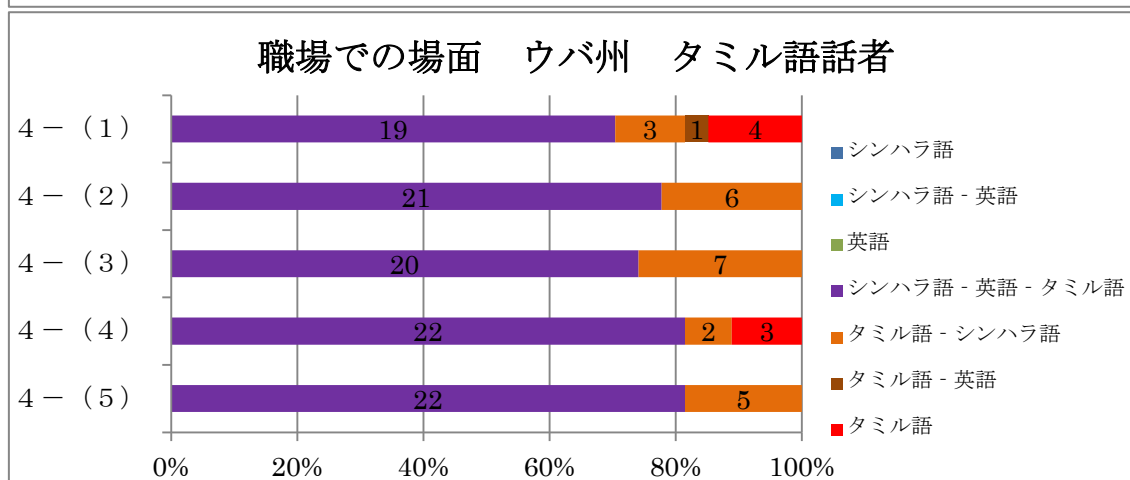
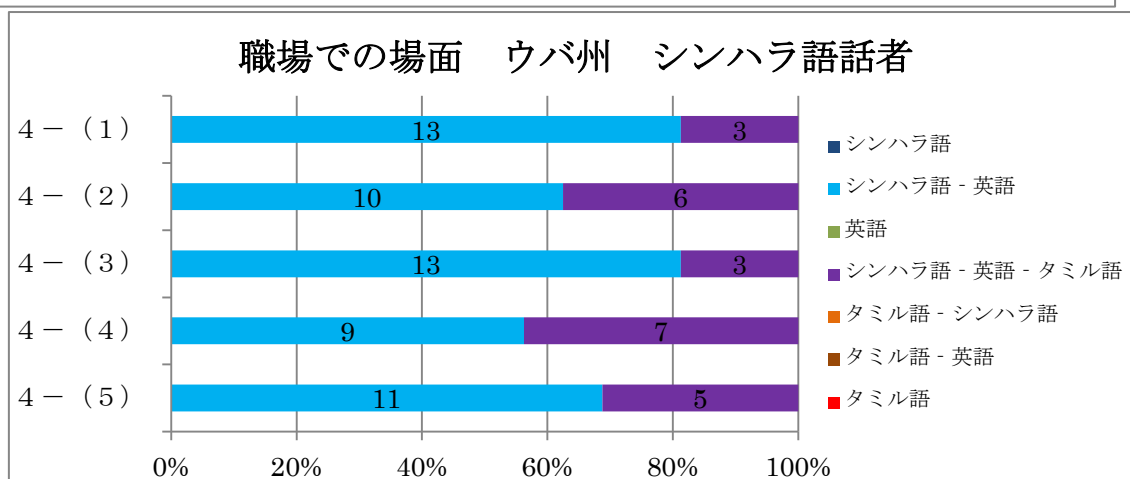
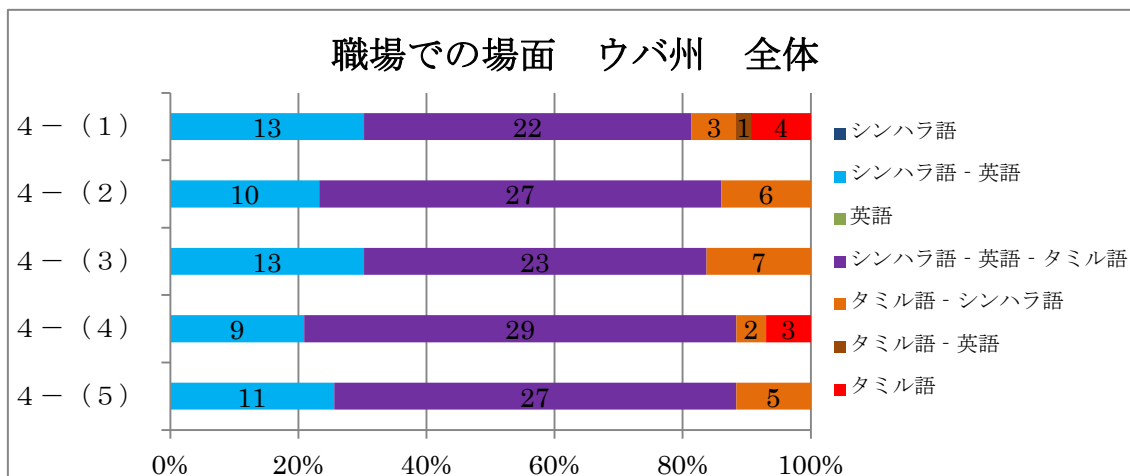
4-5

職場に来る客とシンハラ語、英語、タミル語の 3 言語を使用してコミュニケーションを行うという報告があった。タミル語話者の全員が客と 3 言語でコミュニケーションを行っている。

9-3 職場での場面

(2) ウバ州

職場での場面 グラフ



① シンハラ語話者の言語使用状況

4-1

シンハラ語話者の中で 81.25%と多くの人が職場での読み書きにシンハラ語と英語だけ使用する。また、3 言語を使用している人も 18.75%であった。

4-2

テレビやラジオを聞く場合、シンハラ人の 62. 5%はシンハラ語と英語のチャンネルを視聴しているという報告があった。3 言語のチャンネルを見る人も 37. 5%であった。

4-3

職場の上司と話す時に、シンハラ語話者の 81. 25%がシンハラ語と英語でコミュニケーションを行っていた。3 言語を使用する人は 18. 75%いるであった。

4-4

職場の同僚と休憩時間にコミュニケーションを行う時に、56. 25%と多くの人が英語とシンハラ語を使用する。シンハラ語話者のうち、3 言語で友達とコミュニケーションを行っている人は 43.75%であった。この質問について、シンハラ語話者にインタビューをした時に、「職場の中にはシンハラ人以外にタミル人もいたので、タミル語を使用する場合もあるし、タミル語がよく通じない時に英語に切り替えて両方の言語でコミュニケーションを行う」という回答があった。西部州のシンハラ語話者と比較すると、ウバ州のシンハラ語話者は、3 言語を使用することが多い。

4-5

シンハラ語話者の 68.75%は、職場に来る客とシンハラ語と英語でコミュニケーションを行っている。また、3 言語を使用して客とコミュニケーションを行う人も 31.25%もいた。

② タミル語話者の言語使用状況

4-1

職場での読み書きは、70%と多くの人が 3 言語を使用している。タミル語のみ使用している人は 16%であった。タミル語と英語で読み書きする人も 3%いた。タミル語話者のうち、タミル語とシンハラ語だけ使用する人は 11%であった。西部州のタミル語話者と比較すると、ウバ州のタミル語話者はタミル語のみ使用していることが多い。

4-2

78%と多くの人は、3 言語のチャンネルを視聴している。その中でタミル語とシンハラ語のチャンネルを見る人は 22%いる結果が出た。タミル語と英語のチャンネルを見る人と

タミル語のみのチャンネルを視聴する人はいなかった。

4-3

タミル人はシンハラ人と違って、上司と3言語でコミュニケーションを行う人が74%と多かった。この場面でタミル語とシンハラ語のみで上司とコミュニケーションを行う人は26%であった。商業に携わるムスリム人タミル語話者にインタビューした際、「職場ではシンハラ語話者とタミル語話者の上司がいるため、必要に応じて両方の言語を使用する必要がある」という答えがあった。

4-4

職場の同僚とコミュニケーションを行う時に82%の人は3言語を使用するという報告があった。この質問についてインタビューした際、「職場ではシンハラ人とタミル人がいるので必要に応じて3言語でコミュニケーションを行う」という答えがあった。タミル語のみでコミュニケーションを行っている人は11%であった。また、タミル語とシンハラ語を使用している人は7%であった。タミル語と英語で友達とコミュニケーションを行う人はいなかった。

4-5

タミル語話者の82%が、客に対して3言語を使用すると報告があった。また、タミル語とシンハラ語で客とコミュニケーションを行う人は18%であった。この質問について、タミル語話者にインタビューした時に、「ウバ州では主にタミル人が多くいることと、自分の職場に3つの民族の人が来るので、場合によって、3言語を使用する」という答えがあった。同じ質問に対して「シンハラ人の場合、タミル語ができる人が来た時に、タミル語とシンハラ語の両言語で話すことができる」という報告もあった。

9-3 職場での場面

(4) 小括

この2つの州のそれぞれの民族の言語使用状況をみると、シンハラ人は職場では主に、シンハラ語と英語をよく使用している。

どの州でもシンハラ人はタミル語を使用することが非常に少ない。しかし、西部州と比較すると、ウバ州のシンハラ人の職場ではシンハラ人でもシンハラ語と英語の使用以外に、タミル語も使用している状況がみられた。西部州でもウバ州でも、タミル語話者は、シンハラ人と接触することが多いため、タミル語ではなくて、シンハラ語と英語を使用する必要がある。

西部州にもウバ州にも、タミル語話者はシンハラ人の職場で働いている人が多いため、3言語でコミュニケーションを行っている。西部州が教育レベルの最も高い地域であるこ

とから、シンハラ人、ムスリム人、タミル人のどの話者でもウバ州と比較すると高い教育を受けている。そのため、西部州の人の英語能力は高いと考えられ、従って、職場での場面ではシンハラ語と英語をよく使用していることが見られるのではないだろうか。西部州とウバ州のタミル語話者は、タミル以外に、シンハラ語と英語を上手く使用している。

9-4 社会での場面

(1) 質問項目

社会での場面を分析するにあたって、学生を高校生・大学生、職業を専門職・商業・公務員・会社員に分類した。そして、買い物、市場、ショッピングセンター、銀行、病院、郵便局などの日常生活をしている場面について以下の質問に答えてもらった。

●市場での買い物場面

5-1・市場に行って買い物をする時に市場の店員とどの言語で話しますか

- ・相手はシンハラ人の場合
- ・相手はタミル人の場合
- ・相手はムスリム人の場合

●ショッピングセンターでの買い物場面

5-2 ショッピングセンターに行った時にその店員とどの言語で話しますか

●銀行での場面

6-1・銀行で銀行員とどの言語で話しますか

●国立病院や私立病院での場面

7-1・病院では医者や看護師とどの言語で話しますか

7-2・私立病院の医者や看護師とどの言語で話しますか

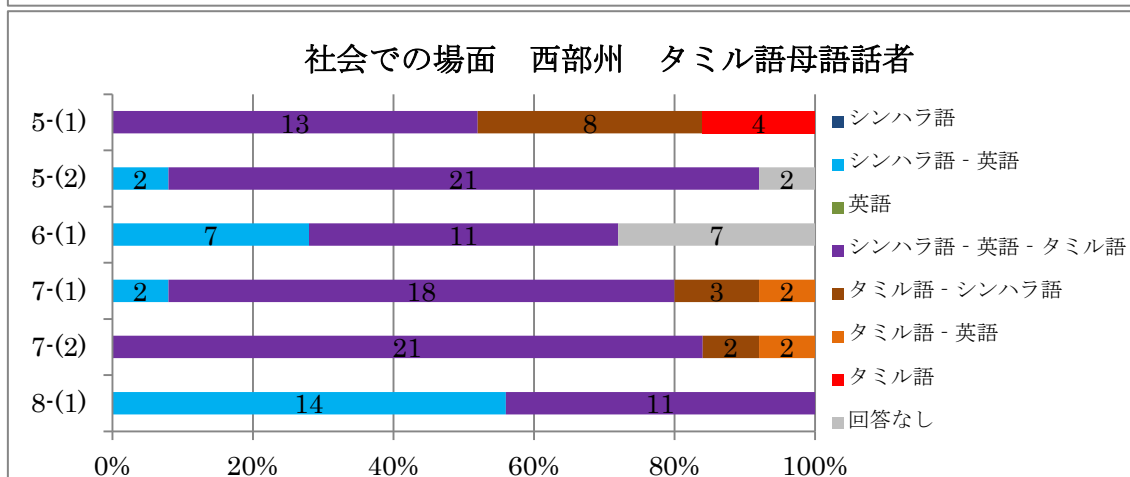
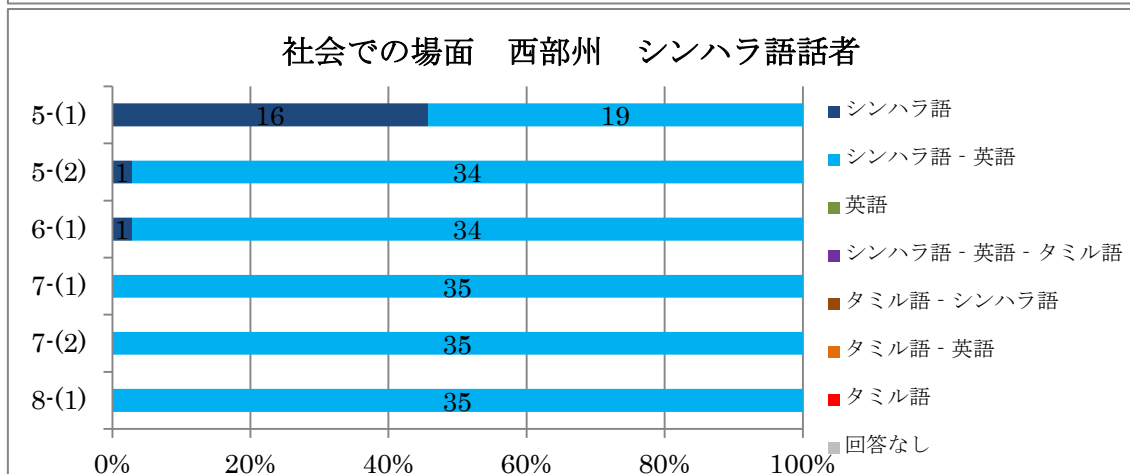
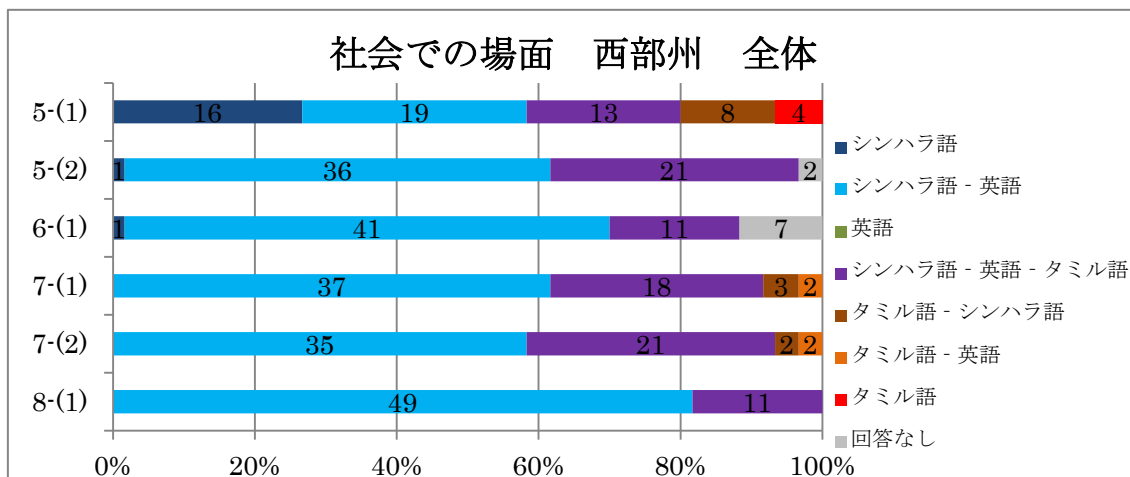
●郵便局での場面

8-1・郵便局員の人とどの言語で話をしますか

9-4 社会での場面

(1) 西部州

社会での場面 グラフ



9-4 社会での場面

① シンハラ語話者の言語使用状況

5-1 市場

市場に行った時に店員とどの言語でコミュニケーションを行っているかについて質問をした時に、シンハラ語でコミュニケーションを行う人が約 46%いた。同じ質問で店員とシンハラ語と英語でコードスイッチングをする人が約 54%であった。

5-2 ショッピングセンター

97%の人がシンハラ語と英語でコミュニケーションを行っている。市場とショッピングセンターでは、言語使用状態の大きな差がある。3%の人が店員とシンハラ語のみでコミュニケーションを行っている。ショッピングセンターでは、英語とシンハラ語のコードスイッチングをすることと、市場では店員とシンハラ語のみでコミュニケーションを行うことについて、調査対象者の何人かにインタビューをした際に、「市場では、野菜や果物などを売っている人は主に遠くの田舎から出てくる人が多いため、彼らは主にシンハラ語でコミュニケーションを行っている」という答えがあった。しかし、「ショッピングセンターで働いている店員は客に対して、主に英語で話す人もいるが、英語とシンハラ語のコードスイッチングをしながら話す人もいるので、その人に合わせて両方の言語を使用する」という答えがあった。ショッピングセンターでは、タミル人とムスリム人の店員がいる場合、必ずシンハラ語と英語の両言語で話すことが一般的だという人もいた。高級なショッピングセンターでは、客に対して英語で話す店員もいるし、シンハラ人と会っても英語とシンハラ語両方で話す店員もいる。

6-1 銀行

銀行員とコミュニケーションを行う時に、97%の人が英語とシンハラ語のコードスイッチングをしている。また、3%の人がシンハラ語で銀行員とコミュニケーションを行っていた。シンハラ語と英語を使用することについてインタビューをした時に、「銀行ではシンハラ語のみでコミュニケーションを行うことがほとんどない」と答えた人が多かった。銀行では、書類を書く時もシンハラ語、英語、タミル語の3言語で書くことができる。また、銀行員も客とシンハラ語のみでコミュニケーションを行うことはほとんどない。そして、多くの人が銀行に行った時も、シンハラ語と英語を使用している。

7-1 国立病院

医者や看護師とコミュニケーションを行う場合の質問に対しては以下のようなデータが得られた。

シンハラ語話者全員が、医者や看護師と、シンハラ語と英語でコミュニケーションを行っていた。この質問についてインタビューした時に、「病名、薬等を説明する時にシンハラ語

のみで説明することはほとんどない。そして、英語も必ず使用する」という結果が出た。また、病院、薬局では医者も働いているスタッフも英語でコミュニケーション行うことが多い。そして、患者が病院に行く時も、シンハラ語と英語の両言語を使用することが多い。

7-2 私立病院

医者や看護師とどの言語でコミュニケーションを行っているかについて質問をした時に、全員がシンハラ語と英語の両言語を使用していた。

この質問についてインタビューをした時に、「私立病院では医者も患者も他のスタッフも、英語のみでコミュニケーションを行う人が多い。そして、病院に行った時も、英語で話す場合もあるが、特にシンハラ語と英語の両言語を使用して医者や看護師とコミュニケーションを行う」という答えがあった。国立病院よりも私立病院にいる医者や看護師は、特に英語のコードスイッチングをする人が多く、患者と話をする時、患者が病気や薬についての説明が分からなかった場合、シンハラ語を混ぜて話をする。

国立病院でも私立病院でも英語を使用することが多い。医者、看護師、病院のスタッフは英語でコミュニケーションを行う。また、私立病院に行く患者も、エンジニア、銀行員、教師、など社会階層のレベルが高い人達なので、医者や彼らは英語でコミュニケーションを行うことが一般的だが、シンハラ人の場合シンハラ語と英語のコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行うことが多くある。

8-1 郵便局

郵便局のスタッフとは、シンハラ語話者全員が英語とシンハラ語の両言語を使用してコミュニケーションを行っていた。シンハラ語と英語を使用することについてインタビューをした時に、「郵便局に行って切手を買ったり、手紙を出したりする時に郵便局の人達とシンハラ語と英語を混ぜて話す場合が多い」という答えがあった。

② タミル語話者の言語使用状況

5-1 市場

買い物をする時に、シンハラ語、英語、タミル語の3言語を使用する人は約52%であった。32%の人がタミル語とシンハラ語で市場の人とコミュニケーションを行っていた。また、タミル語のみで話す人は16%であった。この質問の時に、3言語で話す人にインタビューした際、「シンハラ人の店員がいると、シンハラ語で話ができなくなる場合、英語も使用する。また、店員がタミル語を少しでも話せるとわかったら、タミル語、シンハラ語、英語の3言語でコミュニケーションを行う場合もある」という報告があった。

5-2 ショッピングセンター

買い物をする時に、店員と3言語でコミュニケーション行うという人は約84%であった。同じ質問で、シンハラ語と英語で話をする人もいた。

6-1 銀行

シンハラ語、英語、タミル語の3言語でコミュニケーションを行う人は、44%であった。また、シンハラ語と英語でコミュニケーションを行う人は約28%であった。銀行で3言語を使用する人にインタビューした時、「銀行に行けばシンハラ人のスタッフが多くいるため、タミル語を使用すると銀行の手続きなどが詳しく説明してもらえない場合があり、シンハラ語と英語でコミュニケーションを行う必要がある」という報告があった。さらに、シンハラ人のスタッフでもタミル語が話せる人がいることがわかったら、3言語を使用しながらコミュニケーションを行うという答えがあった。

7-1 国立病院

医者や看護師とコミュニケーションを行う時に、シンハラ語、英語、タミル語3つの言語を使用する人は72%であった。タミル語と英語を使用する人も約8%いた。また、タミル語とシンハラ語の2つの言語で医者や看護師とコミュニケーションを行う人が12%であり、シンハラ語と英語のコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行う人は8%であった。この質問についてインタビューをした時に、「病院ではタミル人の医者や看護師がいる場合タミル語を使用するが、タミル人がいない場合はシンハラ語と英語でコミュニケーションを行うことになる」という報告があった。

7-2 私立病院

医者や看護婦さんと、シンハラ語、英語、タミル語の3言語でコミュニケーションを行う人が84%であった。また、タミル語とシンハラで話す人が8%とタミル語と英語で話す人が8%であった。タミル語とシンハラ語を使用し、コミュニケーションを行う人にインタビューをした時に、「シンハラ人の医者はタミル語が話せると分ったらタミル語とシンハラ語で話す」という報告があった。

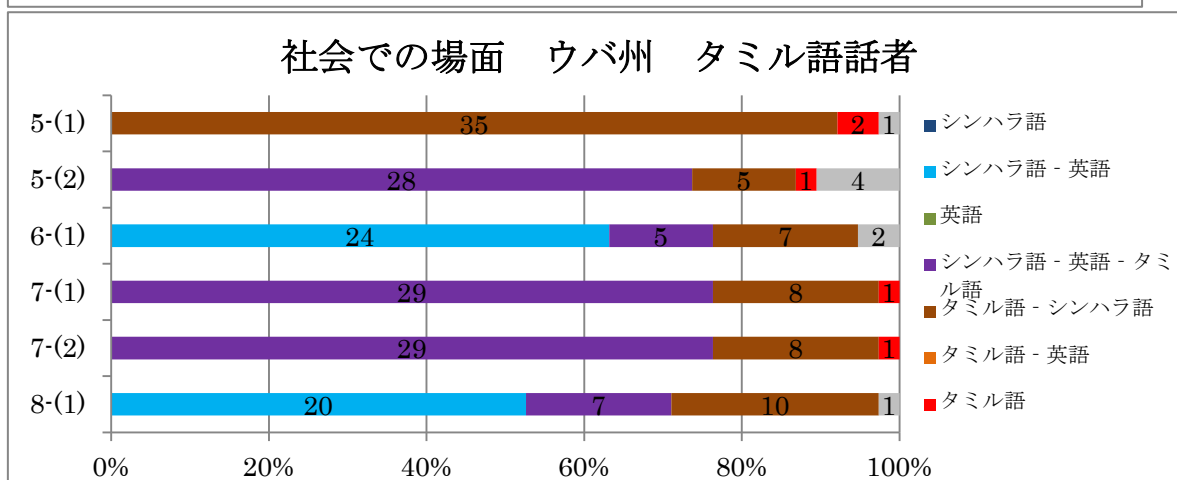
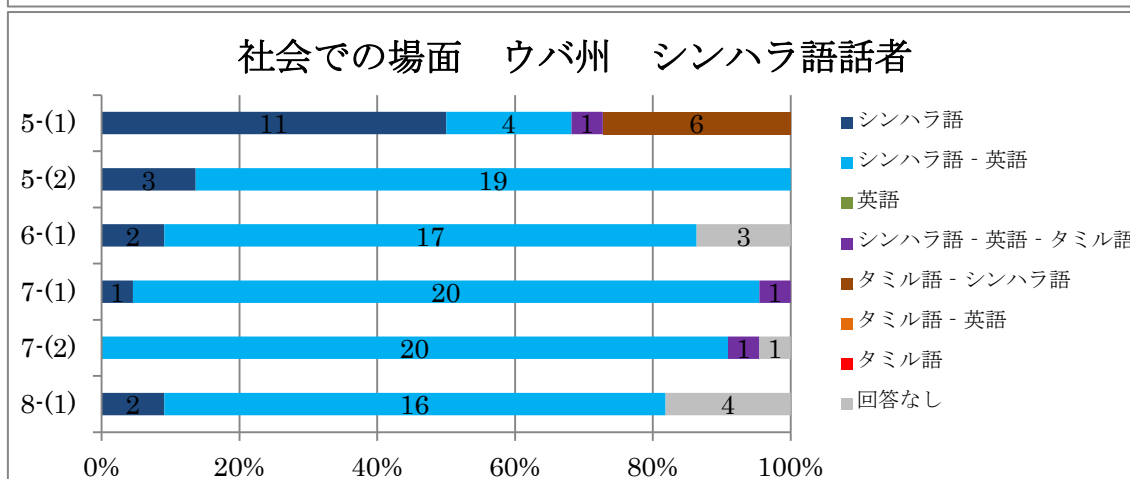
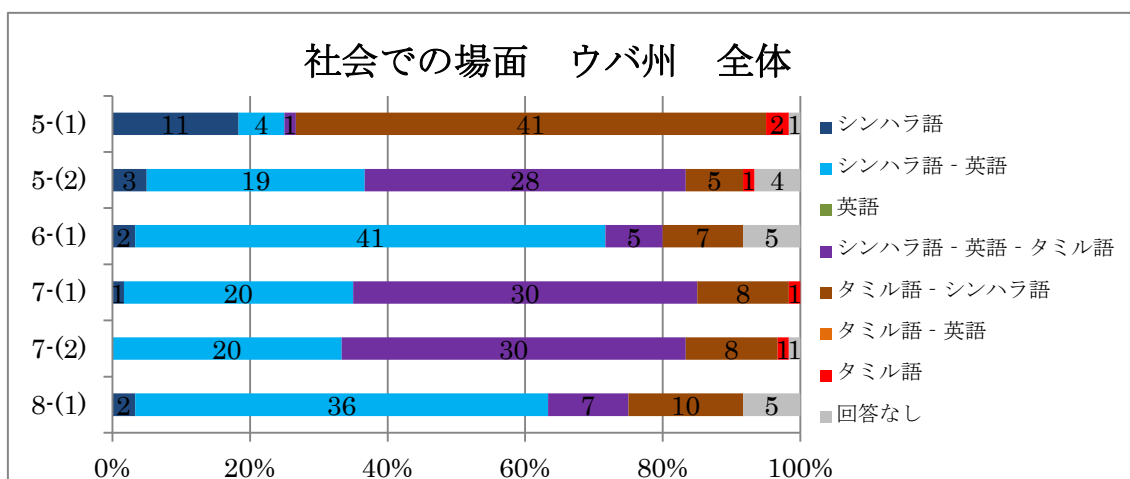
8-1 郵便局

郵便局の従業員と話す時、タミル語話者の56%と多くの人が、シンハラ語と英語の両言語でコミュニケーションを行っていた。タミル語、シンハラ語、英語の3言語を使用する人は44%であった。この質問に対してインタビューをした時に、「郵便局で働いているスタッフの多くはシンハラ人で、シンハラ語でコミュニケーションができない場合、3言語を使用する必要がある」という答えがあった。

9-4 社会での場面

(2) ウバ州

社会での場面 グラフ



9-4 社会での場面

① シンハラ語話者の言語使用状況

5-1 市場

店員さんと話す時に、シンハラ語のみでコミュニケーションを行う人が 50%であった。西部州と比較すると、ウバ州のシンハラ語話者がタミル語とシンハラ語の2つを使用する人が約 27.5%いた。また、シンハラ語、英語を使用する人は 18%いて、シンハラ語、英語、タミル語 3 言語を使用する人が約 4.5%であった。

5-2 ショッピングセンター

店員さんと、シンハラ語と英語でコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行う人は約 86.5%と多かった。また、店員とシンハラ語のみでコミュニケーションを行う人は約 13.5%であった。

6-1 銀行

銀行員とシンハラ語と英語でコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行う人が約 78%であった。また、シンハラ語のみで銀行員と話す人が約 9%であった。無回答の人も約 13%いた。ウバ州と比較すると、西部州のシンハラ語話者が銀行員とコミュニケーションを行う時、多くの人がシンハラ語と英語をよく使用していた。

7-1 国立病院

約 90%の人がシンハラ語と英語を使用していた。シンハラ語のみで使用する人が約 5%と、シンハラ語、英語、タミル語の 3 言語を使用する人が約 5%であった。西部州のシンハラ語話者はウバ州のシンハラ語話者と比較すると、国立病院に行った時に、西部州の人全員がシンハラ語と英語のコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行っていた。

7-2 私立病院

医者と看護師とコミュニケーションを行う時は、約 92%の人がシンハラ語と英語を使用し、約 5%の人が 3 言語を使用していた。ウバ州の多く人が病院でシンハラ語と英語のコードスイッチングをしてコミュニケーションを行っていた。

8-1 郵便局

授業員と、シンハラ語と英語でコードスイッチングをする人が約 73%であった。シンハラ語のみでコミュニケーションを行う人は約 9%で、無回答の人も約 18%いた。西部州とウバ州を比較すると、西部州の人が全員シンハラ語と英語のコードスイッチングをするが、ウバ州ではシンハラ語のみでコミュニケーションを行う人もいた。

② タミル語話者の言語使用状況

5-1 市場

ウバ州のタミル語話者は西部州のタミル語話者と異なり、市場で、店員とタミル語とシンハラ語のコードスイッチングをする人が約 93%いた。市場でタミル語のみで話す人が約 6%であった。無回答の人もいた。西部州と比較すると、タミル語、シンハラ語、英語の 3 言語を使用する人がいなかった。

タミル語とシンハラ語を使用することについてインタビューをした時に「、市場ではシンハラ人の店員もいるので彼らはタミル語をあまり使用しない場合、シンハラ語も混ぜてコミュニケーションを行う」という報告があった。

5-2 ショッピングセンター

店員とタミル語、シンハラ語、英語の 3 言語を使用する人が約 74%であった。タミル語とシンハラ語でコードスイッチングをする人は約 13%いた。タミル語のみで店員とコミュニケーションを行う人が約 2%であった。無回答の人約 11%であった。この場面では、タミル語と英語を使用する人はいなかった。

6-1 銀行

銀行員と約 63 %の人がシンハラ語と英語でコミュニケーションを行っていた。また、約 19%人が、タミル語とシンハラ語でコミュニケーション行っていた。シンハラ語、タミル語、英語の 3 言語でコミュニケーションを行う人が約 14%であった。無回答の人約 5%もいた。ウバ州のタミル語話者は他の場面より銀行の場面では時に、英語とシンハラ語のコードスイッチングをしている。

7-1 国立病院

医者と看護師とタミル語、シンハラ語、英語の 3 言語でコードスイッチングをする人が約 76%であり、約 21%の人がタミル語とシンハラ語でコミュニケーションを行っていた。タミル語のみで医者と看護師とコミュニケーションを行う人が約 3%であった。

7-2 私立病院

医者や看護師とコミュニケーションを行う場合、タミル語、シンハラ語、英語の 3 言語を使用する人が約 76%であった。タミル語と英語を使用する人が約 21.%であった。タミル語のみでコミュニケーションを行う人が約 3%であった。ウバ州のタミル語話者が国立病院と私立病院に行った時に医者や看護師とコミュニケーションを行う時に両方の場面では同じような言語使用状況の結果が得られた。

8-1 郵便局

シンハラ語と英語で話す人が約 53%であった。タミル語とシンハラ語で話す人が約 26%であった。タミル語、シンハラ語、英語の 3 言語で話す人が約 19%であった。無回答の人でも約 2%いた。

9-4 社会での場面

(4) 小括

西部州のシンハラ語話者が、市場の場面以外にショッピングセンター、病院、銀行、郵便局に行った時にシンハラ語と英語を使用している。日常生活の中で調査対象者が全員、英語とシンハラ語のコードスイッチングをすることが明らかになった。西部州のシンハラ語母語話者が、社会での場面の時に、シンハラ母語のみでコミュニケーションを行う人は少なかった。

職場での場面の結果でも、シンハラ語話者の多くが英語とシンハラ語のコードスイッチングをし、コミュニケーションを行っていた。また、ウバ州のシンハラ語話者と比較すると、西部州のシンハラ語話者の方が、市場に行った時にシンハラ語と英語を使用し、コミュニケーションを行うことがわかった。

西部州のタミル語話者は、シンハラ語話者と異なり、社会での場面の時にシンハラ語、英語、タミル語の 3 言語を使用する人が多くいた。西部州のタミル語母語話者と比較するとウバ州のタミル語話者は、社会の場面ではよくタミル語とシンハラ語のコードスイッチングをしていた。また、シンハラ語と英語使用する人もいた。社会での場面では、市場、ショッピングセンター、郵便局、病院、銀行ではシンハラ人のスタッフが多いため、タミル人はシンハラ語と英語を使用する必要がある。社会での場面ではタミル語のみを使用する人がほとんどいなかった。

10. アンケート調査総括

スリランカ西部州とウバ州のシンハラ語話者およびタミル語話者が、それぞれの場面での言語を使用し、相手とどのようにコミュニケーションを行っているかについて以下のような結果が得られた。

家庭での場面では、2つの地域とも、タミル語話者が祖父母と話す時にはタミル語だけを使用する。しかし、西部州のシンハラ語話者が祖父母と話をする場合、多くの人は、シンハラ語と英語のコードスイッチングを行う。西部州の年配者、特に専門家は、家族階層などによる環境の影響で家族の中でシンハラ語とともに英語もよく使用する。また、首都に住んでいる人はいろいろな社会人と接触する機会があるため、シンハラ語だけでなく英語にコードスイッチングをするのが普通である。しかし、同じ場面のウバ州のシンハラ語話者は、英語で接触する機会がほとんどないため、祖父母に対してシンハラ語と英語のコードスイッチングを行うようなことは見られない。一方、シンハラ語話者は家庭の中で両

親や兄弟姉妹とコミュニケーションを行う時も英語とシンハラ語のコードスイッチングをよく行う。同じ場面ではウバ州のシンハラ語話者中多くの人は英語とのコードスイッチングを行う。

シンハラ語話者もタミル語話者も兄弟姉妹とコミュニケーションを行う時には、母語とともに英語のコードスイッチングを行うことがよく見られる。また、テレビを見る時は本調査のどの調査対象者もシンハラ語、英語、タミル語の3つのチャンネルを見ている場合が多かった。家庭での場面では3言語を使用する割合はシンハラ語話者より、タミル語話者の方が多かった。

学校の場面では西部州とウバ州のシンハラ語話者は、先生や友達同士では、シンハラ語と英語でコードスイッチングをしながらコミュニケーションを行う場合が多く見られる。しかし、同じ場面でもウバ州のタミル語話者は、西部州のタミル語話者よりタミル語だけを使用する人が多い。西部州のシンハラ語話者は学校では、どの質問に対しても、シンハラ語だけでなく、英語とコードスイッチングをすることが多い。特に部活動の場合、初対面の人達だけではなく、いつも会うメンバーや先生達とも、シンハラ語と英語両方を使用している。ウバ州のシンハラ語話者は学校の場面では3言語を使用する割合が高い。このようなことからみると、西部州の学校はウバ州の学校より教育レベルが高いことから、英語を使用する割合もウバ州より高いと考えられる。

西部州のタミル語話者と比較するとウバ州のタミル語話者は学校でタミル語、シンハラ語、英語の3言語を使用する割合は少ない。逆に西部州のタミル語話者がタミル語と英語を使用する割合は、ウバ州のタミル語話者の割合より少ない。そして、西部州のタミル語話者は、母語以外にシンハラ語と英語を多く使用している。またウバ州の学校では、タミル語話者はシンハラ語を使用することが少ない。

職場での場面について、シンハラ語話者の言語使用状況をみると、特に西部州のシンハラ語話者は、シンハラ語だけでなく、英語とコードスイッチングをする割合が多い。また、西部州のシンハラ語話者は職場ではタミル語をほとんど使用しない。逆に、ウバ州でもシンハラ語話者は職場ではタミル語を使用する結果がみられた。また、西部州と比べると、ウバ州のシンハラ語話者は、職場ではシンハラ語と英語以外に、タミル語も話している状況がみられた。

西部州もウバ州もタミル語話者は、職場では、タミル語と共に。英語とシンハラ語とのコードスイッチングを行っている場合が多かった。西部州のタミル語話者は職場では特に文書を読み書きする場合、タミル語だけを使用している人が多くいた。

西部州でもウバ州でもタミル語話者は、シンハラ人と接触することが多いため、タミル語ではなく、シンハラ語と英語を使用する必要があることが明らかになった。

スリランカでは、西部州が教育レベルの最も高い地域であることから、ウバ州と比べるとシンハラ語話者もタミル語話者も高い教育を受けていると考えられる。そのため、西部州の話者は英語能力が高いと思われる。それを裏付けるように、職場の場面ではシンハラ

語と英語をよく使用していることがみられる。

西部州のタミル人とムスリム人は、シンハラ語と英語については比較的容易に使用していることがわかった。特に英語の能力が高いと考えられる。

西部州のシンハラ語話者が、市場の場面以外でショッピングセンター、病院、銀行、郵便局に行った時には、シンハラ語と英語のコードスイッチングを行うことが明らかになった。一方市場では、スリランカの様々な地域から来る店員がいるため、シンハラ語だけでコミュニケーションを行う現状もある。ウバ州ではタミル語話者の店員も市場にいるため、シンハラ母語話者もシンハラ語だけでなくタミル語へコードスイッチングをし、コミュニケーションを行っている。ウバ州では社会での場面の結果をそれぞれの場所でシンハラ語のみでコミュニケーションを行っている人がいることがわかった。シンハラ語のみでコミュニケーションを行う人達は年配者が多く、英語ができない人である可能性がある。ウバ州のタミル語話者は、社会での場面では、タミル語だけでなくシンハラ語とコードスイッチングしている。西部州にいるタミル語話者より、ウバ州のタミル語話者は、シンハラ人とよく接触する機会があるので、社会生活ではシンハラ語も使用していると考えられる。しかし、銀行、病院、郵便局で働いているスタッフの多くはシンハラ語話者なので、タミル語話者は、日常生活で様々な場所に行く場合に、シンハラ語と英語を使用する必要があると考えられる。特に、西部州に住んでいるシンハラ語話者の多くはタミル語ができないので、タミル語話者と接触する時に、言語問題が起きるのではないだろうか。本調査のインタビューの結果では、ムスリム人のタミル語話者も、タミル人のタミル語話者も、シンハラ人と接触するうえで、シンハラ語と英語両言語ができないとスリランカ社会では生活することが難しいという答えが多かった。

今回の調査のデータに基づいて、スリランカのシンハラ語話者とタミル語話者の言語使用状況について考えると、住んでいる地域や場面によって、使用する言語が異なることがわかった。また、シンハラ語話者は家庭の中でもコミュニケーションを行う時に、シンハラ語だけでなく英語にコードスイッチングすることが多いようだが、教育レベルについて考えると、ウバ州の年配者は英語を使用することはほとんどないと考えられる。

以上のアンケート結果を踏まえて、スリランカ人の言語使用状況や、それぞれの民族が母語と共に英語をどのように使用しているのか、英語やシンハラ語、また、タミル語と英語のコードスイッチングはどのように行われているのか、3言語をどのように使い分けているのか等を明らかにするために、それぞれの場面の自然会話の録音及び録画をそれぞれ文字化し、分析する必要があると考えられる。

11. 今後の研究方針

今回の調査では、どの民族でも、地方や、職業、首都に近いかどうかなどの要因が、日常生活の中で母語とともに英語を併用する頻度に影響を与えることが明らかになった。また、家族や友達同士のような間柄では英語と母語とのコードスイッチングをしながら使うという報告が多かった。

本調査によるとスリランカにおける言語使用状況は、地域や学歴、職業、社会階層によって英語の占める割合が多くなってきており、今後の研究でさらに詳しい分析を行う。

以上のことから、言語使用状況を調査し、その結果からシンハラ人同士ではどのような言語使用状況になるか、シンハラ人とタミル人の間ではどうか（英語やシンハラ語にコードスイッチングするか、シンハラ語ベースで英語の語彙借用が起こるかなど）を明らかにすることができると思う。

4つの場面においてシンハラ語母語話者とタミル語母語話者が相手とコミュニケーションをする時に、コードスイッチングを行うことについての細かい分析をする必要があると考えられる。そのために、自然会話録音及び録画のデータを文字化し、シンハラ語母語話者はコミュニケーションを行う時に、シンハラ語と英語のコードスイッチングをするか、シンハラ語ベースで英語の語彙借用が起こるかなどを明らかにしたい。また、同じくタミル語母語話者同士でコミュニケーションを行う場合、タミル語と英語のコードスイッチングをするか、タミル語をベースにして、英語の語彙借用などが起こるかについて詳しい分析をする。それから、それぞれの別の話者とコミュニケーションを行う時に母語で話している時の英語へのコードスイッチングがどのように起こるかなどを細かく見る必要があると考える。

参考文献

- Abe Akiko (1989) "A Sociolinguistic Survey In Asian English in Contact"
『北海道東海大学紀要 人文社会科学系』第 2 号 (pp135-156)
- 飯野公一ほか (2003)
「新世代の言語学—社会・文化・人をつなぐもの」くろしお出版
- 加納満 (1996)
「多言語社会スリランカにおけるシンハラ人日本語学習者の言語態度」
『長岡技術科学大学言語人文科学論集』vol. 10 (pp83-95)
- 榎本蘭鉄也 (2007)
「インドの言語政策と言語状況—言語ナショナリズムと英語の拡大—」
山本忠行・河原俊昭
『世界の言語政策』くろしお出版
- 林田享子 (2002)
「スリランカの言語事情と学校英語教科書」
『岐阜聖徳学園大学紀要 外国語学部編』vol. 41 (pp87-102)
- Fernado, Chitra (1989)
"English as problem and resource in Sri Lanka Universities." English across Cultures
culture across English: A Reader in Cross-cultural Communication. Ed. Ofelia Garacia
and Ricardo Otheguy. Berlin. New York: Mouton de Gruyter.
- Fernado, Chitra (1977)
"English and Sinhala bilingualism in Sri Lanka"
Language in Society. 6, 341-360,
- ブリギッテ・シュリーベン＝ランゲ著 原聖ほか訳 (1990)
『社会言語学の方法』三元社 pp127
- 和田衣世 (2007) 「スリランカの大学生の言語学習ビリーフから日本語教育を考える」国際
交流基金 日本語教育紀要 第 3 号 pp.13-23

参考ウェブサイト

- 外務省スリランカ
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/srilanka/data.html>
フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』 スリランカ
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%83%AA%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%AB> (2009 年 6 月 27 日参照)
外務省ホームページ スリランカ民主社会主義共和国
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/srilanka/data.html> (2009 年 6 月 27 日参照)
http://indiaing.zening.info/map/Sri_Lanka/index.htm

Summary:

Language Usage Conditions of Multilingual Nations - Sri Lanka

“Sinhalese native speakers and Tamil native speakers' scenes, their word usage conditions in Western Province and Uva Province .”

Sajeewani DISSANAYAKA

(Chiba University Graduate School of Social Sciences and Humanities)

Sri Lanka is a multilingual nation, where various languages, races, and religions exist. Sinhalese, Muslims and Tamils reside together with Burger, Marais and native people called 'Veddah'. Sri Lankan people use three languages; Sinhala, English, and Tamil in their daily communication. To examine the language situation in Sri Lanka means to analyze the cultural and social circumstances within Sri Lanka.

In particular the Code Switching (CS) is seen in various situations in Sri Lanka. It is expected that a person would switch the language code depending on the situation. This also differs according to various circumstances such as speaker's life style and living conditions at home, academic background and the social hierarchy. Furthermore, it is estimated that differences in CS between Tamil minority and Sinhala majority would exist. It is important to consider these points in order to examine the situation of communication. English is also used quite often in Sri Lanka. The influence and the necessity of English would be examined through a survey of English usage spreading in the real world.

The questionnaire style survey has been conducted and it was administered based on pilot research in Japan. It is necessary to investigate various circumstances that people face in order to examine the true language usage conditions. The investigation considered people in various places and situations throughout Sri Lanka.

Sri Lanka consists of nine states. The research was done in eight states: Central Province, Eastern Province, Northern Province, Southern Province, Western Province, North western Province, Uva Province and Sabaragamuwa province.

The research was done as follows:

The locations : at a house of a standard family, at a bank, at a school and at a post office in each locations.

The subjects : 525 people including students, office workers, house-wives, farmers, and elderly people.

The format of investigation: The questionnaire included four communication situations and questions

In this paper, the language usage conditions of Sinhalese native speakers and the Tamil native speakers of both Western Province and Uva Province are analyzed in various situations. As the result, the Sinhalese native speakers in Western Province showed many examples of code switching between Sinhalese and English. Moreover, English code switching was seen frequently in the home.

When considering the Uva Province, the Sinhalese native speakers use both Sinhala and English while a significant proportion of them are trilingual speakers there. They often change between the three main languages; Sinhala, English and Tamil are used quite often at schools, offices, hospitals, and so on.

To examine a number of communication scenes in different language groups in Sri Lanka, it was clearly seen that there are more trilingual speakers among Tamil native speakers who more likely to switch between three languages in different situations, while Sinhalese speakers switch between two languages. The data of the survey also showed that the usage of languages varies according to the speakers' social status, region where he or she lives, academic background, age, etc.

Moreover, when the communication is taking place at home, the Sinhalese native speakers often use the code switching between Sinhalese and English. However, the elderly people in Sri Lanka, especially people living in Uva Province, rarely speak English due to their poor academic background.

It has become clear that the language usage conditions differ from one another depending on the society, the region, and the educational level, and age of the person in Sri Lanka.

However it is not well known yet when and how the code switching happens. As for code switching between English and Sinhalese, it is important to record their natural conversation in various scenes to analyze certain characteristics of the code switching. This would help clarify how Sri Lankans use these languages.